銀魂。鬼の副総督と呼ばれた男。

Natu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀魂。 鬼の副総督と呼ばれた男。

【Nコード】

N1920L

【作者名】

N a t u

【あらすじ】

注意。 予めお断り致します。 この小説では、真選組が過激派攘夷派集団となっております。

鬼兵隊と手を組んでいる設定です。 嫌な方はその場でお退き頂く事を強くお勧め致します。

映画やアニメ等見ていたらもし、真選組が過激派攘夷派になったらどうか？ と思いき書いていたものです。 (笑) 尚、此方も・銀魂第一作目、2作目同様にオリキャラが出てくる可能性が大きいのでその辺もご了承のほどよろしくお願い致します。 此方は多分ネタあ

がり次第の更新となります。その辺もご理解とご了承のほどよろしくお願い致します。

以下は、あらすじみたいなものですよ。

天人に支配されてる江戸・・・。

その支配下に置かれる人間。

だが、その支配下にもめげず国を変えようとする攘夷浪士達。

しかし、その中には過激派と呼ばれる集団がいる。

其れが、真選組である。その組は破壊行為で江戸を転覆しようと考えているのだ。

と同時に同じく過激派の鬼兵隊ともつるむ事となる。

注意書き。(必読)(前書き)

此方は、一応必読みたいなものです。

お読みになつて下さい。

一応お話流れと同じになっていると思いますが・・・。

大事にな事ですので二度も書かせて頂きました。

その辺もご了承のほどよろしくお願い致します。

注意書き。(必読)

注意。予めお断り致します。この小説では、真選組が過激派攘夷派集団となっております。

鬼兵隊と手を組んでいる設定です。嫌な方はその場でお退き頂く事を強くお勧め致します。

映画やアニメ等見ていたらもし、真選組が過激派攘夷派になったらどうか？と思いい書いていたものです。(笑)尚、此方も・銀魂第一作目、2作目同様にオリキャラが出てくる可能性が大きいのでその辺もご了承のほどよろしくお願致します。此方は多分ネタあがり次第の更新となります。その辺もご理解とご了承のほどよろしくお願致します。

以下は、あらすじみたいなものです。

天人に支配されてる江戸・・・

その支配下に置かれる人間。

だが、その支配下にもめげず国を変えようとする攘夷浪士達。

しかし、その中には過激派と呼ばれる集団がいる。

其れが、真選組である。その組は破壊行為で江戸を転覆しようと考えているのだ。

と同時に同じく過激派の鬼兵隊ともつるむ事となる。

注意書き。(必読)(後書き)

第3部作(銀魂)製作開始しました。

ゆっくりとはありますが温かい目で見守って頂ければ幸いです。

第1章。プロローグ。 闇の夢。(前書き)

此方は、まだ土方さんは出てきません。

1人の女が出てくる予定です。(第一作目の土方の妹分であり、嘗て高杉さんの過去の闇の相棒です。)

第1章。プロローグ。 闇の夢。

此処は、江戸にあるとある宿。

此処にはワカバと言う、‘中立派’の武装？組織の連中が居た。

そして……。1人の女がある部屋で寝ていた。

この女は此処のリーダー兼幹部である橘夏美である。(橘夏美の詳細い詳細は銀魂第一作目でどうぞ。)

そちらの方が詳しく書いていると思うので。。。()

しかしこの女には人には言えない、秘密があった。、

あの真選組の副総督土方十四郎の妹分であり、そして……。鬼兵隊の総督高杉晋助の攘夷戦争後の

相棒パートナーだったまた、嘗て闇の始末屋炎龍と呼ばれ、闇の中で一時活躍

していた’。

夏美は夢にさいなまれていた。

夏美「……ツ……!!!!!!!!!!」

― ‘夢の中’ ―

ある寒い夜の江戸。

夏美はタバコを吸いながら歩み続けていた。

すると、派手な蝶が夏美の前を飛びまくっていた。

夏美『……この蝶』と続け様に『……!!!!まさかッ!!!!!!?』

一瞬思い浮かべるのは嘗ての相棒パートナーの顔。

そして、辺りを見渡すが……。

誰もいない。夏美『……気のせいか』。『そう言い再び歩み始

めた。

とその時路地裏で夏美の様子を密かに高杉が見てた。

キセルを吸いながらニヤリと笑い・・・。

‘ 平和遊びもそろそろ終わりだア ’

‘ 夢から覚めて俺達の世界で再会を心から祝おうじゃねエかア ’

高杉路地裏から出てきてキセルを加えてニヤリと笑い『なア？夏美
イ？』

夏美』……!!!!』そして驚きながらタバコを思わず落としてしまった。

そして……。

眼が覚め勢いよく布団から飛び降りて冷や汗をかきつつ頭を手で抱えて「……ゆっ、夢か。」

そしてテーブルにあったタバコに布団から出て手をかけタバコに火を灯した。

……この夢が、現実にならん事、を強く願うよ。

と心の中で呟いていた。

一方、ワカバの隠れ家の前の路地裏では高杉がキセルを吸いながらニヤリと笑って「……見つけたぜエ？」夏美イ。「

さア……再会を祝おうじゃアねエか、俺の愛しき紅の龍よ」と心の中で楽しそうに呟いた。

第1章。プロローグ。闇の夢。完。

第1章。プロローグ。 闇の夢。（後書き）

第1章始まりました。最後にチラと高杉さんが出てきました。

さて、此方も予告はアニメ予告風になると思います。

其れでは、次章のグタグタ予告をどうぞ（笑）

夏美「……!!!!!!なッ!!!!!!」

高杉ニヤリ「……よオ。夏美ィ。久しいじゃアねエか。」

夏美「……あ、貴方は!?!」

晋助様!!!!!!?!

どうして!?!?

高杉ククク「どうしたア?」昔はあんなに俺アに懐いていたのになア。」「

と夏美に近づき耳元で囁いた。

夏美「第2章。闇の夢が現実！？夏美、高杉との再会！？」

「次章もどうぞ宜しくお願い致します。」

以上です。グタグタで申し訳ない(汗)

第2章。闇の夢が現実！？夏美、高杉との再会！？（前書き）

今章は、前章の若干続きみたいなものです。

編集可能性あります。

長丁場も・・・。

（尚、此処の銀さんは、武装警察、白夜又組、って・・・設定です。因みに、幕府には忠誠誓っていません（笑；））原作設定の銀さんをお好きな方は此処でお退き頂いた方が宜しいかと・・・。

第2章。闇の夢が現実！？夏美、高杉との再会！？

アレから夏美は隠れ家でタバコを吸い続けていた。

夏美「……………」

何つつ夢を見てしまったのだろうか？

夏美はアと煙を吐き出し「……ある意味めんどくな事になったわ。」

私しゃアは只……父大樹と母楓が「遺してくれた」この組織を「
只守りたいだけなのに」。

頭の中で「声がする。」

……夏美イ。

‘あの方の声が’・・・。

ククククと笑い俺アの下に戻ってこいやア。

なア・・・・・・・・。。夏美イ？

俺の・・・・・・・・。。。

止めてこれ以上！！！！

言わないでエエエ！！！！！！！！！！

夏美はタバコを再度口に加え直して何か‘人気’を感じたのかその後ろに「・・・何か御用かい？」

と続け様に「・・・新八君？」

すると黒い制服をメガネをかけた男の子が入って来た。

武装警察‘白夜叉組’の監察隊士志村新八である。

新八は申し訳なさそうに「・・・すみません。夏美さん。ちょっと‘危険情報’が。」

夏美タバコを吸いつつ新八を見て「・・・鬼兵隊と真選組が江戸入りしているかもしれないって事だよね？」

新八驚きながらも頷き「は、はい！！そうです！！！！ですから、銀さんが夏美さんにも一応念の為に知らせておけと・・・。」

夏美フツと笑い新八に「ありがとさん。」と続け様に「警戒してくよ。」

・ ・ ぁの方（晋助様）に会う訳にはいかない。今は・ ・ ・

それだけは、決して避けなければ・ ・ ・

と呟いていた。

すると新八心配そうに「・ ・ ・夏美さん？」

夏美「・ ・ ・いや。何でもない。」

そして新八は「其れでは、僕はまだ仕事ありますから・ ・ ・。」

夏美慌てて窓を閉め灰皿にタバコをもみ消し急いで部屋を出ようとした。

次の瞬間……。

「ククク……何処に行くつもりだア？夏美イ？」

夏美はその声を聞き思わずその場で固まってしまった。

第2章。闇の夢が現実！？夏美、高杉との再会！？完。

第2章。闇の夢が現実！？夏美、高杉との再会！？（後書き）

今章もお付き合いくださいます。有難うございます。
無事に更新完了致しました。

其れではほぼ恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑・）

ああ……。現実になってしまった’。

本当なら、望んでいなかったのに……。

そっとしておいて欲しかったのに……。

どうやら……。闇は（晋助様）私を解放してくれないらしい。’

高杉クククと笑い「どうしたア？ 何を固まっているんだア’？ 久々の再会だ・・祝おうじゃねエかア？」そっ言い夏美の側に寄って来た。

果たして夏美は！？

高杉「第3章。夏美と高杉の会話。」（予定）「ククク、次章もどうぞよろしく頼むぜエ？」

以上です。其れでは次章も今章と同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第3章。夏美と高杉の会話。（前書き）

今章は、高杉さんと夏美が再会した所から書かせて頂く予定です。

多分此方も長丁場そして編集可能性あります。

第3章。夏美と高杉の会話。

夏美は、アレからずっと固まっていた。

「あア・・・どうしてこうなったのだろう？」

「私は、只・・・只。只。。。」

「ココロマモリタイダケダッタノニ・・・。」

「ヤミノシマツヤエンロントシテデハナクテ、オモテノジブントシテタチバナノホンケノニンゲン

トシテタチバナナツミトイウヒトリノニンгентシテ・・・。」

「ナノニコノカタハワタシヲコウソクスル。」

「タブンヤミノシマツヤノワタシヨ……。」

高杉その夏美の様子を見てクククと笑い近づきながら「……どうしたア？夏美イ？久々の再会だア。祝おうやア。」と楽しそうに近づいた。

夏美はまだ相変わらず固まり続けていた。其れも、無言のまま……。

と同時に高杉夏美をいきなり抱き寄せた。

夏美は其れでようやく口を開き「……し、晋助様。どうしてここに？」

高杉其れを聞いてクククと笑い耳元で「お前エの事は大体察知しているんだよ。」此処に（江戸）居るのもなア。」

夏美「……………」

「あア、やっぱりこの人は解放してくれないのね。」

「でも、本音ではそっとしておいて欲しい自分（私）とそうでない自分（私）が交差する。」

「良く分からない。」

「どちらが正しいのかな。」

すると夏美はいつの間にか高杉の所に手を回して小声で「……
会いたかった」。晋助様。「と呟いた。其れを聞き逃さなかった高
杉はニヤリと笑い夏美を再度抱きしめ耳元で「戻って来いやア」。
夏美ィ。」

夏美は只アレからまた黙ってしまった。

私は……………。

私は……………。

と心の中で呟いたその時……………。

第3章。夏美と高杉の会話。（後書き）

今章も無事に更新完了致しました。

と同時にお付き合い下さいまして有難うございます。

其れでは、ほぼ毎回ですが、グタグタ予告をどうぞ。（笑；）

夏美「雷外！！あの女は今どこにいる！？」

雷外「兄さんの情報だと白夜叉組だって。言っていたけど・・・もしかしたら移動するかもしれないらしいから、移動するとなると江戸橋かもしれない。って兄さんが・・・」

高杉「・・・銀時の所から江戸橋か。」

俺も協力してやりてエが・・・今の奴と俺ア」。

雷外「第4章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、

高杉と銀時の再会！？そして・・・。（前編）。」

「次章もどうぞ宜しくお願い致します！！」

以上です。其れでは、次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第4章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、高杉と銀時との

今章は、夏美が嘗ての姉貴分と再会する所を書かせて頂く予定です。

残酷シーン等ある予定なのでご覧いただく際には十分お気をつけて。

尚、長丁場編集可能性もあります。

第4章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、高杉と銀時との

夏美ギリと口をかみしめて……………。

あの女が此処に!!!!?!

畜生!!!!!!!

今度こそ……………。

けりをつけてやらア!!!!!!!

過去の自分と……………。

そしてその鎖を！！！！！！

断ち切ってやる！！！！！！

そして……………。

今まで散って行った相棒達の無念を……………。

ワカバを護る！！！！！！

其れが私に課せられた宿命サダメ!!!!!!

だから…………。

メイラン。

私は、アンタを…………。

斬る!!!!!!

絶対に…………。

そして、何も言わずにいや・言わなかったのが正しかったのかも
しれない。

その場をすばやく後にした。

高杉キセルを吸いながらその様子を見てクククと楽しそうに笑い「
こりゃア面白れエ事になりそうだア。」と続け様に携帯を取り出し
連絡をし「あ、土方か？俺だア？唐突で悪リイんだけどよオ。ワカ
バの隠れ家近くの江戸橋にチイと来てくれねエかア？もしかしたら
‘面白れエもん’見れそうだからよオ。本当かア？じゃアまた後で
なア。」

そう言い携帯を切ってワカバの隠れ家を後に江戸橋へと向かった。

一方、取り残された雷外は「……こりゃアある意味マジ事にな
ったもんだ。ライカの姉御と一応念の為銀さん達にも伝えなきゃ。」
とその場を後にした。

一方、此処は江戸橋。

夏美はタバコに火を灯し橋に寄りかかっていた。

すると一瞬何者かが斬りかかった。

夏美もその刀を受け止めて「……誰だい？ 広州の奴かい？」

するとそいつはクスと笑い「久々かしら？ 炎龍？」

その声を聞いた夏美は驚き「まさか！？ アンタ！？ 水龍スイロン！？」

水龍事太刀川愛梨、夏美のもう一つの闇の相棒氷龍（銀魂一作目か二作目で登場）と同じ嘗ての闇の相棒。

夏美「……ッ！……！頼むからさ。その名で呼ばんでくれよ。」

水龍クスと笑い「……そんなこと言わずにさ。あたしとあんたの仲間じゃないの。仲良くしようよ。」

そう言い刀を再度夏美に向けて振り下ろした。

夏美の右肩に血飛沫が軽く舞う。

一方、高杉は土方と江戸橋で合流し夏美の様子を見ていた。

其れも楽しそうに……。

すると高杉達の背後から何者が近づいてきた。

高杉気配を察知したのか楽しそうにククク「よオ。久しぶりじゃねエかア。銀時イ。」

すると其処には雷外の報告をすでに受けていた銀時が数人の隊士を引き連れてやって来て高杉を見て

「・・・高杉。」と睨みながら言った。

土方もニヤリと笑い「・・・白夜又組か。」と呟いた。

第4章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、高杉と銀時との再会！？（前編）完。

土方チヲと見てニヤリと笑い「あいつの『本命』が現れたかア？」
と呟いた。

夏美「今日こそは『過去の鎖断ち切ってやらア！』」とメイラン
に向けて

刃を下した。

銀時「第5章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、高杉と銀時との再会！？（後編）そして・・・」
「次章もどうぞよろしく頼むわア。」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第5章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、高杉と銀時との
今章は前章の続きです。

前章同様かもしれませんが。(残酷シーン等あり)

第5章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、高杉と銀時との

アレから高杉達は江戸橋で銀時率いる白夜叉組と対峙していた。

すると水龍と対立していた夏美は1人の漆黒のチャイナドレスを着てキセルを吸っていた女を見つけ

凄いい相で「メイラアアアアアン！！！」と叫びながら翡翠刀を振り下ろした。

メイランと呼ばれた女はクスと笑った。

44

と同時にメイランの前に何と、水龍が立ちふさがり夏美の翡翠刀を受け止めた。

そして夏美「……愛梨（水龍の本名）！！！！これは一体何の真似だッ！？」と愛梨を睨みつけながら聞いた。

すると水龍クスと笑い「主を護るのが今の私の務め、私は、務

めを果たしただけ。』

夏美其れを聞いてフツと笑い「・・・そうかい。其れが今のあなたの仕事かい？」

水龍再びクスと笑い「えエ・・・だから、貴女も。」

「一緒にまた闇の中で生きましょう。」

其れを聞いた夏美は再度水龍に刀を向け「・・・悪いが、そいつは出来ねエ相談だア」。私しやアは、

「ワカバとして生きる事を」決めたんだからよ。橘家本家の宿命サダメとしてな。」と続け様に

「其れに、この女は、昔私しやアを捨てた。其れもひどい捨て方で。」

そして両親も恋人も恋人も奪った。それなのに・・・今更今更何さ。
冗談じゃなねエ！！！！もう、あんな想いをする何ぞアごめんだ
ア、！！！！もし、再び闇に堕ちてしまふ事があつたら・・・私は、
私は・・・」

もう一度、晋助様の相棒パートナーとして生きる。

其れを聞いた水龍「・・・残念だね。あたしはあなたの事嫌いじゃ
なかつただけどねエ。」

夏美再度フツと笑い「・・・私しやアもさ。」と続け様に悲しそ
うな顔で「・・・だから、もう、私らの関係もこの辺で、仕舞にしよ
うや。」そう言い「あばよ。相棒。」そう言い翡翠刀で水龍の体を
・・・ドスツ！！！！！！と突き抜けた。

そして、血飛沫が舞い夏美の顔に返り血が舞った。

その光景も流石のメイランも当の本人である水龍も驚いて水龍はその場で血を吐き倒れ込んだ。

夏美は只悲しそうな眼で其れを見ていた。

第5章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場!?!そして、高杉と銀時との再会!?!(後編)完。

第5章。夏美のかつての姉貴分であるメイラン登場！？そして、高杉と銀時との

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

短く？なつてしまいましたが（笑；；）

其れではほぼ毎回恒例？のグタグタ予告どうぞ（笑）

水龍「・・・う、うそでしょ？夏美？」

夏美「・・・私しゃアは、広州に強引に忠誠を誓わされた奴以外、
は、広州に着いた者は敵、！例え、嘗ての相棒だったとしても・・・」

メイラン「・・・夏美。^{シヤァアメイ}」

するとククと笑い声が聞こえ「綺麗じゃアねエか。夏美よオ。」

夏美「・・・土方の兄貴。」第6章。水龍死す！？そしてメイランと夏美の会話

そして・・・兄貴分であり真選組鬼の副総督の土方現る！？」

「次章もどうぞ宜しくね！」

以上です。其れでは次章も今章同様お楽しみ頂ければ幸いです。

第6章。水龍死す！？そしてメイランと夏美の会話。そして、真選組の鬼の副総

前章と多少つながりがあるかもしれませんが。

此方も残酷シーン等がもしかしたらあるのかもしれませんが。

ご了承のほどよろしくお願い致します。

第6章。水龍死す！？そしてメイランと夏美の会話。そして、真選組の鬼の副総

アレから、自分の嘗ての相棒であった水龍を夏美自身の刀の手で貫いた夏美。

其処には、もう、‘相棒として’ではなく、‘敵として’しか見ていなかった。

夏美の服とほほに水龍の返り血が浴びてあった。

そして、水龍は事きれた。

夏美其れを見て無言のままタバコに火を灯す。

するとメイランが「夏美。どうして？貴女とこの子……。」

大切な相棒^{パートナー}同士じゃなかったの？

夏美「・・・フン。確かに昔はそうだった。だが、今の私が
らしてみれば敵にすぎねエ」。

其れに、此れはアンタに「言える事」？嘗てアンタを敬愛していた
姉貴分として見ていた私を捨てた

アンタに「・・・。私、いや、私達姉妹から両親を奪った」アン
タに言える事？」と続け様に「寧ろ、私しやアを闇に堕したのは・
・・・。」

アンタ自身と言っても同じだよ？

と冷ややかな目でメイランを見た。

メイラン「……夏美。」

あア……あの時あの子に「ひどい仕打ちをして捨て」なおかつ、
あの子を変えてしまったのは、

私自身ね。でも……「其れがどうしたの？別に、良いじゃない？私
は悪くないわ。」と言った。

夏美ギリと口をかみしめて「……悪くない？だったら、どうし
てアンタは……。」「今でも私しやア
を拘束する」？「」

メイランクスと笑い「私はね、今でも……貴女の事大事に思っ
ているのよ」？貴女の周りにいる者を消せば嫌でも私の下に戻って
く
るでしょうっ？」「

貴女の居場所は・・・私の場所よ？

夏美其れを聞いて翡翠刀を再度握り締め「・・・ざけんじゃねエ！！！！ざけんじゃねエ！！！！だつたら・・・どうしてあの時私を捨てたんだ！？それで父さん達を奪つたんだアアア！！！？今の私の居場所はアンの居場所じゃねエ！！！！！！私は・・・私は・・・。」と言いかげようとした次の瞬間ククと笑い声がして「俺達の居場所」が「今のお前エの居場所だぜ」？夏美イ。「俺のかわいい妹分よオ。」

その声を聞き夏美驚きながらその声の主に振り向いた。

そして・・・。

「・・・ひ、土方の兄貴。」

其処には黒の着流しを着たタバコを吸っている土方がニヤリと笑い
「よオ。夏美イ。ようやく会えたな。」と夏美に向かって言った。

第6章。水龍死す！？そしてメイランと夏美の会話。そして、真選
組の鬼の副総督土方現る！？完。

第6章。水龍死す！？そしてメイランと夏美の会話。そして、真選組の鬼の副総

今章も御付き合い下さいまして、有難うございます。

其れではほぼ毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑・）

夏美「・・・兄貴。」

土方ククと笑い「どうした？久しぶりの再会だ。祝おうじゃねエか？ん？」

と夏美に歩み寄って来た。そしてほほを触り血をなで耳元で「綺麗だぜエ、？俺達の所に再び落ちてこいや。メイランはお前エを捨てたんだぜエ？今更なア？」

夏美何も言えずに無言のまま聞いていた。

メイラン「夏美っ！！良いからこっちに来るのよ！！！！」

するとライカが現れ「・・・今更、姉貴分きどりかい？メイラン？対外にしておけよ。今の相棒はアンタを仇としてしか見えてないよ。」

メイラン「ッ！！アンタはライカ！？」

ライカ「第7章。水龍死後・・メイランと夏美。土方との再会！？
相棒死女ライカ

現る！（前編）」「次章もどうぞ宜しくね！！」

以上です。次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第7章。水龍死後・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女ライカ現る！

今章は、前後篇に分けて書かせて頂きたいと思います。

残酷シーン等あり（予定）です。

第7章。水龍死後・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女ライカ現る！

ああ……………。

会ってしまった。

晋助様にも……………。そして兄貴にも……………。

「こつも何でこの2人も私を……………」。

「カイホウシテクレナイノダロウ？」

「ドウシテコノママズットズット……………コウソクシウツツケルノダ

「ロウ？」

「ワタシガエンロンダカラ？」

「メイランモ・・・シンスケサマたちモワタシヲ・・・。」

「テバナソウトシナイ？」

「タチバナナツミトシテミテクレナイ？」

「モウワカラナイヨ」。

「ワタシハ・・・ドツチ？」

土方ニヤリと笑いながら「久しいじゃねエか夏美。その様子だともう高杉の奴には会ったみたいだな。」

と夏美に歩み寄った。

夏美は何も言わずに只只タバコを床に落とし、土方の所に歩き始めた。

あア・・・。

もう、良く分からないや。

‘今の私自身が今の私自身で、なくなりそうで・・・。

そして、土方は夏美の耳元で「血良い匂い、だろ？」

夏美は顔しかめた。

すると、メイランが事を荒げ「夏美ッ！……！……！良いから此方に来なさい……！」

と同時にメイランの背後からタバコの煙が舞った。

そして「此方に来なさい」？その言葉はもう、「今の夏美（相棒）には遅いんだよ」。メイラン。
残念ながらね。」と女の声がした。

メイランはその声の主に振り向き「アンタは、ライカー!!」

ライカ・ネアン夏美の相棒であり馴染み（詳細は此方も銀魂第一作目でどうぞ。そちらの方が詳しく書かれていますので。）

するといつの間にかメイランの側にいた広州の手下どもが「ライカだ!!!」死女だ!!!」と小声で

囁いた。と同時にメイランが手下どもにライカを一斉に攻撃を仕掛けるように命令する。

手下どもはライカに向けて攻撃を仕掛けた。すると・・・ドシユッ
!!!!!!ザンツ!!!!!!と血飛沫が舞った。

ライカの手にはおなじみの武器である、氷棒、が握り締めていた。其れも血を滴れて。

ライカはタバコを吸いながら「・・・相棒^{あいつ}は、あの時（約10数年位前広州とワカバの大戦）から、側にもいたのにも拘らず、父大樹さんと母楓さんを護れなかつた自分をそして嘗て散つていた相棒（仲間）達をも護れなかつた自分を・・・そして愛する恋人（隼人）を護れなかつた自分を恨み・・・呪い。そして、少しでも橘家本家の宿命^{サダメ}を果たそうと・・・思い。闇の始末屋から表の自分に戻り、少しでも・・・ワカバの役に立とうと、両親が護つて来たものを少しでも護れる様に・・・誰にも頼ろうとせず、甘える事もせず・・・只、只、己の宿命^{サダメ}を果たそうと・・・ワカバに残つたんだ。それなのに・・・それなのに・・・メイランお前は、相棒の気持ちも考えずに束縛し続ける」。

もう・・・いい加減にしてくれよ。相棒を解き放つてくれよ。」と続け様に「後、付け加えるのを忘れたが、相棒が闇の始末屋になつたのも・・・隼人が闇の始末屋だったからだ。まア・・・当の本人は其れを望んでいなかつただけだな。だが・・・隼人のぬくもりを求めすぎた夏美は案の定受け継いでしまったのさ。炎龍を。そして、4代風拳の父の雷風拳と母の火炎風拳をも受け継いだ。火炎風拳は、元々復讐の拳であり別名ワカバの復讐者、雷風拳の場合は・・・特に別名は無いけどな。」

土方は其れを黙って聞いていた。

すると、メイランはキセルを吸いながら「・・・高杉と土方はどうなの？彼らも、あの子を束縛しているでしょう？」とクスと反論す

る。

ライカタバコの煙を吐きだしながら「・・・あの方々は別、お前さんより今の夏美にとっちゃあ必要、
かも知れねエ。」と呟き氷棒をメイランに向けて「・・・もう、御仕舞にしようや。、メイラン。」と
付け加えた。

するとメイランギリと唇を噛み「私が、こんな所でくたばるとでも思う訳！、」と続け様に

「出てきなさい！・・・お前達！・・・」そう言うと一斉に軍団が出てきた。

ライカ軽く舌打ちし「・・・広州の義勇軍か」。こいつはチィと厄介だ！・・・」と同時に夏美を見て

「相棒！・・・！」

夏美その声を聞き我に戻り頷きライカの下に行った。

第7章。水龍死後・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女
ライカ現る！（前編）完。

第7章。水龍死後・・・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女ライカ現る！

今章も無事に更新完了致しました。

今章も御付き合ひ下さいまして有難うございます。

其れでは、ほぼ毎回のグタグタ予告をどうぞ。(笑)

メイランの命令で夏美達の前に出てきた広州の中でもっとも、厄介な集団、

広州義勇軍。

夏美軽く舌打ちし「・・・めんどろな奴らが来たもんだ。なア？相棒？」

ライカも頷き「あア・・・まったくだ、相棒。」

と各々が己の武器を取り出し、夏美は翡翠刀。ライカは氷棒。

夏美ライカを見て「・・・ライカ。もし、ヤバくなったら兄様あにさまうちらの義勇軍の許可願を出してくれ。」

ライカも頷き「了解！！」と続け様に「じゃア・・・其れまでチィと暴れますか？相棒？」

夏美其れを聞いてニヤリと笑い「あア・・・そうだな。相棒。」そう言い2人で広州の義勇軍に突っ込んで行った。

広州の義勇軍をなぎ倒す夏美達。

夏美の顔にはいつの間にか知らずに笑みがこぼれる。

其れを見た土方はニヤリと笑い「・・・良いぜ？」夏美？もっと遊べや（暴れる）」

すると高杉が現れククと笑いながら「・・・ずいぶんとあいつ（夏美）楽しんでんじゃアねエかア？」

土方高杉に気づきニヤリと笑いがえし「ああ・・・本当になア」。

そして血飛沫が舞う。

夏美翡翠刀を構え直しながら「翡翠流・・・爆風陣！！！」

と攻撃をしかけライカは氷棒を構え直しながら「花鳥の鳥よ死の鳥よ舞えよ！！花鳥風雲死烈火！！！」と死女の攻撃をお見舞いする。

すると高杉クククとキセルを吸いながら「見るよ！銀時イ、奴ら綺麗だぜエ、？とてもなア。お前エも、戦場にいたから分かるだろうよオ、なア？」

銀時は其れを黙って高杉を睨みながら聞いていた。

銀時「第8章。水龍死後・・・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女ライカ現る！（後編）そして・・・」

「次章もどうぞよろしく頼むわア。」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第8章。水龍死後・・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女ライカ現る！

今章は前章の続きです。

夏美達が多少？暴れている予定です。(笑)

第8章。水龍死後・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女ライカ現る！

アレから広州の義勇軍と対立している夏美達。

ザシュ！！！！ザシュ！！！！！！！！ザシュッ！！！！と血飛沫が舞う。

すると、広州の義勇軍の一人が「なっ！！何なんだよ！！！！」「この女達こいつら、橘夏美はまだ、分かるが・ライカ・ネアンの方はどう見ても「人間じゃねエ」「死神だアア！！！！」

その事を聞かされたライカは幼いころの自分を思い出してしまっ。

「死神か……。」

「そっぴやアそんな事もあつたなア。」

ハハッ！！！其れで私も・・・両親を奪われたもんなア。

すると「・・・オイ！！！！誰が死神' だつてエ！！？」と夏美のどす黒い声がした。

と同時にザシュ！！！！とそのライカを死神扱いした義勇軍の1人を斬った。

そして・・・そいつは事切れる。

広州側から「ひィ！！！」と声がある。

すると夏美は「私しゃアはな、私しゃアの事をとやかに言われるの

は構わない。だがな・・・相棒達がとやかく言われるのだけは勘弁ならねエ！――！」

その言葉は今も亡き夏美の母である楓の言葉と似ていた。

「私はね、私自身の事をとやかく言われるのは構わないわ。ただね・・・仲間達がとやかく言われるのだけはどうにも我慢できないの。」

と続け様に「・・・お前等は、ライカ（こいつ）の、何を知っている？」「何も知らねエ」じゃアねエか

それなのに・・・こいつをとやかく言うのか？死神扱いするのか？」

そう言いながら次々と襲ってくる広州の義勇軍の軍団員を翡翠刀で斬って行く。

あちらこちら血だまり血だまりがたまっていった。

夏美「・・・ライカの事を何も知らない奴が、こいつを語るんじやアねエ」！！！！！！！！！！」と叫んだ。

と同時にまた斬りかかった。その姿は、まるで闇の始末屋炎龍と呼ばれた姿と重なっていた。

義勇軍からは悲鳴が上がった。

と同時に気がつけば全員斬られていた。

メイランは悔しそうな顔をしてその場からいつの間にか消えて行った。

そして、いつの間にか雨が降った。

夏美はあたりを見て只只固まり気がつけば苦笑いをしてライカを見て「・・・チィと、暴れすぎちゃったかな？」相棒？」

ライカはタバコを再度口に加え直し苦笑いをし「・・・あア。見てエだな。」と夏美の肩を抱き寄せてお互いに空を見ていた。

一方、高杉達はそんな2人の姿をとても楽しそうに見ていた。

だが、銀時自身は何故か知らないが・・・。

「言いようのない寂しさ」を覚えていた。

そして……。夏美は空に向かって「ねエ・父さん。母さん。2人の眼には「今の私」はどう写っているの？」と何故か寂しそうに呟いた。

だが……。夏美のその答えに答えてくれる者達は「いない」。

そんな夏美をライカは「……相棒。」と只呟くだけだった。

第8章。水龍死後・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女
ライカ現る！（後編）そして……。完。

第8章。水龍死後・・・メイランと夏美。土方との再会！？相棒死女ライカ現る！

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

ちよつと夏美達の‘過去にはんの少し’だけですが・・・触れてみました。

其れではほぼ毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

あちらこちら血だまり。

夏美「・・・帰ろうか。相棒。どうも此処にいと、気が変になりそっだ’。」

と同時に「‘外もこんな天気だしさ’。」

ライカ頷き「ああ・・・‘本命’^{メイラン}も帰つちまつた事だし・・・引き上げるか。’」

すると銃弾がライカ達の足元に炸裂する。

また子「逃がさないっスよ！！お2人共！！！」

夏美予想外の人物の登場に驚きながら苦笑いをし「……オイオイ。勘忍してくれや。」

ライカもひきつり笑いをし「……本当さね」。

ライカ「第9章。曇天の天気。そして……夏美達の前に鬼兵隊‘赤い弾丸’来島また子現る！（予定）」「次章もどうぞ宜しくね！」

以上です。其れでは次章も今章と同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第9章。曇天の天気。そして・・・夏美達の前に鬼兵隊、赤い弾丸、来島また子現

今章は少し？シリアス？的なものを入れて行く予定です。

長丁場です。因みに夏美は曇天はあまり好きではありません。（笑）

・・・暗めになると思いますそれでももし宜しければどうぞ。

第9章。曇天の天気。そして・・・夏美達の前に鬼兵隊、赤い弾丸、来島また子現

結局。私しやアは・・・・・・・・。。。

「こつする事」でしか出来ない。

「何でだろつね？」

「どうしてだろつね？」

曇天の空がむなしく私しやア達を包み込んでしまう。

夏美タバコに火を灯して「・・・胸糞悪い。」そして隠れ家方

面に歩みを進め「戻ろうよ」。相棒。何だが、「曇天（こんな天気）だ。さっさと隠れ家に戻りてエ」。

ライカもタバコを吸い続け「・・・そうだな。」

ライカ自身もあまり「曇天」が好きではなかった。

過去の自分自身、そして・・・夏美の過去を思い出してしまうからだ。

どうしても・・・。

そっぴゃア、隼人が散った天気も「こんな感じ」だったな。

なア・・・相棒？

今のお前さんは、今どんな気持ちなんだ？

そして、ライカも夏美と共に戻ろうとした次の瞬間。

ドカカカカカン！！と夏美達の足元に銃弾の嵐がやって来た。

「逃がさないっスよ！！お2人共！！！」と元氣の良い派手目な赤い着物を着た金髪の女が出てきた。

其れを見た夏美苦笑いをし「……オイオイ。勘忍してくれや。」

ライカもつられて苦笑いをし「……本当。こんな時に堪忍してくれよ。」

其処には鬼兵隊の女幹部「紅い弾丸」事来島また子が二丁拳銃を構え夏美達の前に立っていた。

夏美はアと軽いため息をつき「ねエ……来ッちゃん。其処どいてくれないかな？」

また子「申し訳ないっすが・・・駄目っス！！夏美様。晋助様からの『ご命令』なので。」

夏美タバコを吸い続けて「・・・なあ、頼むよ。『こんな天気だと』 ども気が変になりそうなんでね

『さっさと隠れ家に戻って1人になりたい気分なんだわ。』と同じ時に『斬られたくなかつたらね』

どいた方が身の為だよ。」と少々睨みつけながら言った。

また子は其れにひるみ思わず尻もちついてしまった。

夏美はその場を無言のまま立ち去る。

ライカまた子を見て申し訳なさそうに苦笑いをし「悪いね。来島ちゃん。あいつ（相棒）こんな天気（曇天）だと機嫌悪くなってしまう事が多いんだ。悪気はないんだけどね。まア・・・あいつに会いたきゃ曇天以外の天気に来る事をお勧めするよ。」と続け様に「じゃね。」と言い隠れ家に戻って行った。

すると高杉がまた子の側により手を差し伸べ「大丈夫かア？来島ア？」

また子テレながらも「は、はい！！！！だ、大丈夫っス！！！！晋助様。」と高杉の手を取り「有難うございます。」と礼を言った。

高杉キセルを吸いながら曇天の空を見ながらクククと笑い「・・・俺達には少なくともこの空の方がお似合いだと思っただけだな。」

そう、思うだろう？夏美イ？

土方もクと笑い「違いねエなア」。「と楽しそうに呟いた。

銀時は心の中で……。

なア……。

夏美よオ。

お前エは今何を思っているんだ？

少しは俺を頼れよオ。と呟いていた。

曇天の空。

鉛のような空。

に雨が降っている。

其れはまるで、彼女（夏美）の心の様に……。

第9章。曇天の天気。そして……夏美達の前に鬼兵隊、赤い弾丸、来島また子現る！完。

第9章。曇天の天気。そして・・・夏美達の前に鬼兵隊、赤い弾丸、来島また子現

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

其れでは毎回グダグダ予告をどうぞ（笑・）

ワカバの隠れ家に戻った夏美達。

夏美の部屋。

夏美はタバコを吸って窓を見ていた。

夏美「・・・はア。」

こんな天気だと暗くなるわね。

夏美「第10章。曇天の夏美の心境。そして・・・桂現る？」

「次章も宜しくね。」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第10章。曇天の夏美の心境。そして・・・桂現る？（前書き）

今章は、夏美達がアレからワカバの隠れ家に戻ってからの夏美自身のお話？みたい

なものです。此方も多少？暗めですのでご了承の程を・・・。

ひよっとしたら桂^{ツラ}さんが現れるかもしれません。

第10章。曇天の夏美の心境。そして・・・桂現る？

アレから、夏美達はワカバの隠れ家。

夏美はアレから自分の部屋で窓を見ながらタバコを吸っていた。

夏美「・・・・・・・・・・・・・・・・。。。」

曇天の空を見ながら不意に思う嘗ての「恋人であり婚約者」だった。
先代の炎龍事隼人の事を。

夏美「・・・・・・・・隼人。」

どうも悔しくてならない。

どうも忘れる事が出来ない。

貴方のぬくもりが欲しくてたまらない。

だから・・・。

私は、炎龍になった。少しでも・・・少しでも・・・忘れない為に。

彼のぬくもりを・・・。

不意に隼人の言葉を思い出しながら夏美は隼人からもらった赤翡翠のペンダントを握り締めていた。

その彼の言葉とは・・・。

「夏美、俺の心と魂、例えこの肉体が滅んでもお前の幸せを祈っている。」

と同時に夏美はいつの間にか一筋の涙を流しながら「・・・ねエ、隼人。今でもさ、貴方心と魂は今でも私の幸せを願ってくれているの??」

と同時に目頭を触り「・・・涙?」

私しゃア、泣いていたのか？

涙何ぞア・・・もう、当の当に朽ち果てたはずなんだがな。

「・・・何時から女々しくなったんだ？私は？」

曇天の空がやけに悲しく見えた。

すると夏美「・・・ん？ありやア。」

深笠をかぶった黒い長髪の男がワカバの隠れ家の前に立っていた。

夏美見覚えあつたのか「・・・桂^{ツラ}さん？」

とその男の呼び名をポツリと呟いた。

と同時に「・・・あの方と同じ指名手配犯の人がこんな所でなにをしてんだが。」と苦笑いを浮かべながらも呟いた。

第10章。曇天の夏美の心境。そして・・・桂現る？完。

第10章。曇天の夏美の心境。そして・・・桂現る？（後書き）

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

其れではほぼ毎回のグタグタ予告をどうぞ（笑）

夏美隠れ家の下にやって来て「・・・そんな所に突っ立っていないで入られたらどうです？桂さん。」

桂「ツラじゃない！！桂だ！！！！む？そうか？すまん。」

と言いつつワカバの隠れ家に入る桂。

其れを密かに路地裏で見る高杉「・・・桂か。相変わらず、型物、
そうだなア。」と同時にクククと笑い「・・・まさか。あいつと接触
するとはねエ。」

此れもこれで楽しくなりそうだな。

桂「第11章。夏美と桂との再会。そして・・・高杉の影？」

「次章もどうぞよろしく頼むぞ!!」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第11章。夏美と桂との再会。そして・・・再び高杉の影?。(前書き)

今章は主に夏美と桂さんとのやり取りです。

もしかしたら、最後辺りに高杉さんが出る予定です。

第11章。夏美と桂との再会。そして・・・再び高杉の影？。

夏美は外にいる男を見て苦笑いをし下に降りて「・・・そんな所に突っ立っていないで入って来られたらどうです？桂さん。」

すると桂は毎度お決まりのセリフで「ツラじゃない！！桂だッ！！！！」と続け様に夏美を見て

「む。すまん。」と言ひ隠れ家の方に入って行った。

夏美も続け様に入ろうとしたが、一瞬ピタと動きを止め路地裏へと眼をやった。

と同時に小声で「・・・まさかな。」と呟き桂も夏美のその様子を見て心配そうに「どうした？夏美？」

夏美ハツと我に戻り、「いえ。何でもありませんよ。」桂さん。「そう言い今度こそ桂と共に隠れ家へと

戻って行った。

そして、隠れ家の中では夏美と桂はたわいもない会話をしていた。

一方、その隠れ家の近くの路地裏ではキセルを吸っていた高杉が見ていた。

そしてクククと楽しそうに「まさか、桂^{ツラ}とも接触するとわねエ。ま
ア、たわいもねエ」事

だろうが……。。。。。」

「いくら同じ闇とてそっち（桂^{ツラ}）の所に着くのは許さねエぜ？」

「お前エは俺の所なんだからよオ」。

なア、夏美イ？

「早く再び俺の下に戻って来いやア」

と楽しそうに呟いていた。

一方、別の隠れ家近くの路地裏では黒紫の蝶の着流しを着て黒短髪の1人の女が見ていた。

「・・・ある意味いろんな意味で参ったわね。銀時は幕府側。んでも

って、ツラは穩健派攘夷になってるし……。私は、攘夷身イ洗ってるし、？夏に会おうにも会えないじゃないのさ。まいったね。」と小声で苦笑いをして言った。

「……あの男も来て^{ひと}いるなんてね。」

この女の名は高杉雪乃。鬼兵隊総督高杉晋助の実の妹である。

因みに漆黒の黒姫と呼ばれ攘夷戦争に参加していた。

雪乃「……今日の所はひとまず引き上げるかね。」と眩き自身の隠れ宿に向かって歩みを進めようとしたその時……。

「よオ。雪乃。」

と低い男の声がした。

雪乃はその声を聞き「・・・兄さん。」と振り向きながら言った。

第11章。夏美と桂との再会。そして・・・再び高杉の影？完。

第11章。夏美と桂との再会。そして・・・再び高杉の影？。（後書き）

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

其れでは、ほぼ毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

キセルの香り。

ああ・・・懐かしいな。やっと会えた。私の、唯一の肉親に。

高杉ククと笑い「久々だなア？雪乃。」

雪乃我慢できずに高杉にしがみつく「・・・ッ！！会いたかった！！
！兄さん！！！！」

高杉は其れを受け入れ頭をなで「俺も会いたかったぜエ？雪乃。」
と続け様に

「今何してるんだア？」

雪乃「攘夷止めて放浪の旅出てワカバに居る。」

高杉其れを聞いてクククと笑い「そうかい。」と続け様に「なァ．．
雪乃。ワカバを止めるとは俺ァいわねエよ。だが、俺ももうお前エ
と離れ続けるのは限界なんだ。俺ァと一緒に来いや。」

雪乃頷き「行く！！連れてって兄さんの所へ！！」

高杉満足したかのように「ああ。連れて行ってやらァ。」そう言い
雪乃を引き連れ

鬼兵隊の船へとひとまず向かって行った。

雪乃「第12章。雪乃実の兄との再会！そして．．鬼兵隊に行く）
予定）」

「次章もどうぞ宜しくお願いします！」

以上です。其れでは次章も今章と同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第12章。雪乃実の兄との再会！そして・・・鬼兵隊に行く？（前書き）

今章は、高杉さんと雪乃さんが再会する所から書かせて頂く予定です。

多分、長丁場かと・・・。

第12章。雪乃実の兄との再会！そして・・・鬼兵隊に行く？

ワカバの隠れ家の路地裏にいた雪乃。其れは、夏美と再会する為であつたが、桂とのやり取り等を見て

今は、会ってはいけない」と諭したのか自分自身の隠れ宿へと戻ろうとした。次の瞬間に・・・。

雪乃にとっては懐かしい声で「よオ。雪乃オ。」と呼びとめられた。

雪乃その声の主の所に向けて「・・・兄さんッ！！！」そう言い高杉の所に思わず我慢できずに駆け込んできた。

高杉はそんな雪乃を暖かく抱きしめた。

其れは、まるで、過激派攘夷浪士高杉晋助、の顔ではなく、高杉雪乃の兄、としての顔だつた。

雪乃高杉の胸に顔渦くめて「・・・キセルの香り、懐かしいな。私が好きな兄さんの香り」。

と続け様に「・・・会いたかった！！兄さん！！」。

高杉クククと笑い「俺もだぜエ？雪乃。相変わらず甘えん坊は変わねエ見てエだなア？」

と雪乃の頭をなでる。

と同時に「今お前エ。何してる？」

雪乃「攘夷止めて、放浪の旅出て今ワカバの一員だよ。」

高杉「そうかい。雪乃、俺アワカバを止めるとは言わねエよ。だがな・・俺アもお前エと此れ以上離れ離れになるのは限界なんだよオ。俺アと一緒に来いや。」

雪乃頷き「私も兄さんと此れ以上離れたくない!!!連れて行って!!!兄さんの下に!!!」

高杉其れを聞いて満足そうに「行くぞ。雪乃。」

雪乃頷き「うん!!!兄さん!!!」

するとその様子を密かにたまたま自分の部屋から出て来ていた夏美が廊下側の窓から見てフツと笑い

小声で「・・・良かったな」。雪。」と呟いた。

と同時に雪乃もその目線を感じたのか一瞬夏美の所に眼をやった。

だが、其処には夏美はもう居なかった。

雪乃小声で「・・・夏。」と呟いた。

そしていつの間にか港に着き其処にはでかい一隻の船が止まっていた。

雪乃その船を見て嘩然としながら「……兄さん。この船？」

高杉キセル吸いながらククと笑い「ああ。そうよ。」

すると一人の金髪の女が出てきて「晋助様アアアア!!!!!! 御帰りなさいっス!!!!!!」

と急いで船から元気よく降りてきた。

高杉「おう。たでえま。来島ア特に変わった事は？」

来島また子。鬼兵隊の幹部で「紅い弾丸」と言う異名を持つ。

また子「いえ。特にないっス!!」と続け様に雪乃に気がつき「ア
ンタ誰ッスか？」

雪乃「へ？私？雪乃。高杉雪乃。宜しくね。」

また子其れを聞き驚いた顔をして「た、高杉って……晋助様と同じ
名字……まさか?!」

雪乃苦笑いをし「そ！高杉晋助の実の妹だよ。」

また子慌てて一礼し「さっ、先程はし、失礼したっス！！し、晋助様を狙う輩と思い・・・。」

雪乃微笑んで「いって！！気にしていないからさ。改めて宜しくね。また子ちゃん。」

また子も微笑んで「此方こそ宜しくっス！！雪乃様！！」と続け様に「自分の事はまた子で良い

っス！！！」

すると高杉が「オイ。来島ア。立ち話でも何なんだからよ。そろそろ中入れてくれや。」

また子「は、ハイっス！！晋助様！！！」と続け様に「ささ、雪乃様もどうぞっス！！」

雪乃「有難う。」

そう言い高杉と一緒に中に入って行った。

第12章。雪乃実の兄との再会！そして・・・鬼兵隊に行く？完。

第12章。雪乃実の兄との再会！そして・・・鬼兵隊に行く？（後書き）

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

其れでは、ほぼ毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

此処は、鬼兵隊の船の中の高杉の部屋。

万斉「・・・しかし、驚いたでござる。」

高杉三味線弾きながら「何がだ？万斉？」

雪乃を見て「・・・晋助にこんなかわいい妹が居たとは。」

雪乃苦笑いをし「一応、初めてお会いした方には自己紹介として言うんですが、

誰も信じてくれないんですよ。寧ろ、過激派攘夷浪士高杉晋助'として今の世間には広がってしまったから・・・。でも、兄は私に對して優しいんですよ？結構。」

万斉小声で「・・・あの晋助が？信じられないでござる。」

高杉「何か言ったか？万斉？」

万斉慌てて「嫌何も。」

すると土方も入って来た。

土方高杉を見て「高杉。『あいつの隠れ家』に小型カメラ付き盗聴器しかけて来たぜ？見るか？」

高杉ニヤリと笑い三味線を置いた。

そして小型ノートパソコンを取り出しワカバの隠れ家に移される。

雪乃苦笑いをし「あア・・・後で夏に絶対にどやされるな。何せ、基本的に盗聴されるの嫌いだから。」と呟いた。

夏美と桂との会話が流れる。

夏美『で？何用得？桂さん？』

桂毎度お決まりのセリフで『ツラじゃない！！桂だアアア！！』と続け様に

『夏美よっ！！我ら桂一派に入らぬか！？入って共に新の日本の夜明けを見ようではないかア！！』

夏美タバコに火を灯し苦笑いをし『・申し訳ありませんが、お断りですよ。私しやアはこのワカバを護る義務があります。両親が遺したこのワカバをね。其れに闇はもうたくさん。私しやアは橘本家の人間としてこれから生きたいのです。』

と続け様に『其れに私しやアの居場所は、此処ワカバ、ですから。』

桂『・・そうか。だがな！！夏美よ！！俺は決して諦めぬぞオ！！』

そう言い立ち上がり『では！また来るな！！』

夏美桂に一礼した。

そして桂は襖をあける手を止めて『・・気をつける？高杉が江戸に

来ている。お前を狙っているぞ?』そう言い今度こそ出て行った。

夏美タバコを吸いながら再び苦笑いをし『……ご忠告どうも』。ただ、もう『手遅れかもしれない』。』と呟いた。

だって……もう再会しちゃっているもの。

夏美「第13章。高杉達に夏美達の会話盗聴される?そして……」

「次章もどうぞ宜しく!」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第13章。高杉達に夏美達の会話盗聴される？そして・・・（前書き）

今章は、鬼兵隊からのスタートとなります。

此方もおそらく長丁場になる予定です。

後半あたりから土方さんが出て来る予定です。

第13章。高杉達に夏美達の会話盗聴される？そして・・・

此処は、鬼兵隊の船の中の高杉の部屋。

其処には、事前に紹介を終えた万斉と雪乃が高杉と共にくつろいでいた。

万斉「・・・しかし、驚いたでござる。」

高杉三味線弾きながら「何がだ？万斉？」

雪乃を見て「・・・晋助にこんなかわいい妹が居たとは。」

雪乃苦笑いをし「一応、初めてお会いした方には自己紹介として言うんですが、

誰も信じてくれないんですよ。寧ろ、過激派攘夷浪士高杉晋助’として今の世間には広がってしまっているから・・・でも、兄は私に對して優しいんですよ？結構。」

万斉小声で「・・・あの晋助が？信じられないでござる。」

高杉「何か言ったか？万斉？」

万斉慌てて苦笑いをし「嫌何も。」

すると土方も入って来た。

土方高杉を見て「高杉。『あいつの隠れ家』に小型カメラ付き盗聴器しかけて来たぜ？見るか？」

高杉ニヤリと笑い三味線を置いた。

そして小型ノートパソコンを取り出しワカバの隠れ家に移される。

雪乃苦笑いをし「ああ・・後で夏に絶対にどやされるな。何せ、基本的に盗聴されるの嫌いだから。」と呟いた。

一方、此処はワカバの隠れ家の夏美の自分の部屋。

夏美と桂との会話が流れる。

夏美『で？何用で？桂さん？』

桂毎度お決まりのセリフで『ツラじゃない！！桂だアアア！！』と続け様に夏美を見て

『夏美よっ！！我ら桂一派に入らぬか！？入って共に新の日本の夜明けを見ようではないかア！！』

夏美タバコに火を灯し苦笑いをし『・・・申し訳ありませんが、お断りですよ。私しやアはこのワカバを護る義務があります。両親が遺したこのワカバをね。其れに闇はもう沢山。私しやアは橋本家の人間としてこれから生きたいのです。』

と続け様に『其れに私しやアの居場所は、此処』ワカバ『ですから。』

桂『・・・そうか。だがな！！夏美よ！！俺は決して諦めぬぞオ！！』

そう言い立ち上がり『では！また来るな！！』

夏美桂に一礼した。

そして桂は襖をあける手を止めて『・・・気をつける？高杉が江戸に
来ている。お前を狙っているぞ？』そう言い今度こそ出て行った。

夏美タバコを吸いながら再び苦笑いをし『・・・ご忠告どうも』。
だけど、もう‘手遅れかもしれない’。』と呟いた。

だって・・・もう再会しちゃっているもの。

すると、女の声で『夏美かアアアアん居るかアアア！！！！！！！』

夏美その声を聞きスパーンと襖をあけその声の主に向かって『夏美
かんじやエエエエエ！！！！夏美だアアアアア！！！！この馬鹿レナ
アアアア！！！！』と思いつき蹴り飛ばした。

その場にも偶然いたライカと亜理紗が互いに顔見合せ苦笑いをし
またやっているよ。と呟いた。

(レナに關しましても銀魂第一作目か二作目をどうぞ。)

と続け様にレナを引きずりながら自分の部屋に戻った。

そして、レナを見てタバコを吸いながら『…んで？お前さんが来たッう事はアレか？情報か？』

レナ体を支えつつも『…いてて。そうよ。何かヤバそうな情報か…。』

夏美『…ヤバそうな情報？何さ？』

レナ顔しかめて『・・・広州が、天道衆の連中と手エ組んだらしい。』

夏美其れを聞いて驚き『・・・何！？広州が！？天人のリーダー格である天道衆と！？』

レナ頷き『・・・あア。でも、念の為洗う事をお勧めするよ。』

夏美頷き『ライフエイ！！居るか！？』

ライフエイ『あいよ!!--!』

夏美レナからの情報を伝えた。

ライフエイ頷き『了解!--すぐに洗おう!--!』

夏美頷き『・・・頼む!--!』

ライフエイ夏美の部屋を後にした。

するとライカと亜理紗が入って来て夏美を見て『夏美（相棒）！』

夏美は只険しい顔でタバコを吸い続けていた。

と同時に『・・・チイとヤバい事になりそうだな。』と呟いた。

第13章。高杉達に夏美達の会話盗聴される？そして……。完。

第13章。高杉達に夏美達の会話盗聴される？そして・・・（後書き）

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

其れでは、毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

アレからライフエイに情報を洗った結果を聞いた夏美達。

夏美テーブルに拳をガツンとぶつけ「クソっ！！そうまでしてあの女はつぶしたいのか！？私じゃアらの居場所を！！！！」

ライカタバコに火を灯し「・・・ッ！！メイランめ！！」

と同時に亜理紗に「兄様にいさまに緊急にご指示を仰いでくれ！！！！」

亜理紗頷きその場を後にした。

レナも黙り込んでいた。

ライカ夏美を見て『・・・で？どうするよ？相棒？』

夏美もタバコを吸い続けて『・・・兄様のご指示次第あにさまだな。うちらは兄様のご指示一つで『穏健派』にもなれるし『武道派』にもなれる。だが・・・基本的にはあくまで『中立派』よ。』

ライカ頷き『・・・で？もし、『武道派』になるんだったらどうする？』

夏美顔しかめながら苦渋の決断をし『・・・兄貴に会いに行く。』

ライカ頷き『・・・了解した！じゃ、兄様のご指示を待つ事にするか。』

そう言い夏美の部屋でくつろぎ始めた。

いまだに高杉達が会話を盗聴しているのにも気がつかずに・・・。

レナ「第14章。ワカバ危険！？そして・・・夏美土方との再会！？」

「次章もどうぞよろしくです！！」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第14章。ワカバ危険！？そして・夏美土方との再会！？（前書き）

今章は、前章の続きみたいなものです。

夏美が若干切れかかっています（笑；）

第14章。ワカバ危険！？そして・・・夏美土方との再会！？

アレからライフエイに情報を洗った結果を聞いた夏美達。

夏美テーブルに拳をガツンとぶつけ『クソっ！！そうまでしてあの女はつぶしたいのか！？私じゃアらの居場所を！！！！』

ライカタバコに火を灯し『・・・ッ！！メイランめ！！』

と同時に亜理紗に『兄様にいさまに緊急にご指示を仰いでくれ！！』

亜理紗頷きその場を後にした。

レナも黙り込んでいた。

ライカ夏美を見て『・・・でっどつするよ？相棒？』

夏美もタバコを吸い続けて『…兄様のご指示次第おにさまだな。うちらは兄様のご指示一つで‘穏健派’にもなれるし‘武道派’にもなれる。だが…基本的にはあくまで‘中立派’よ。』

ライカ頷き『…で？もし、‘武道派’になるんだったらどうする？』

夏美顔しかめながら苦渋の決断をし『…兄貴に会いに行く。』

ライカ頷き『…了解した！じゃ、兄様のご指示を待つ事にするか。』

そう言い夏美の部屋でくつろぎ始めた。

只、其れが高杉達に会話を盗聴されているとも知らずに…。

夏美タバコを吸い続けながら『…メイラン。』

何時から違ったのか？

何時から間違えたのだろうか？

私らは……。

すると夏美筆筒から一枚の写真を取り出した其処には嘗てあった、
姉妹分だった頃のメイランと夏美、

そして、ある日突然メイランは夏美をひどい仕打ちで捨てた。

夏美その写真を見てタバコを吸い続けながら『……ハッ！！何をば
かな事を。ってか、まだ、こんなもの持っていたんだな。』と続
け様にライターに火を灯し写真に近づけて燃やした。

メイランと夏美の写真が燃えてチリになって行った。

夏美燃えた写真の灰を灰皿に捨てていた。

夏美天井を見て『・・ひよつとしたら最初からあの女と会わなければこんな事にはならんかったのかも知れねエなア。』と呟いた。

と同時にライカからボスであるオウガの指示が伝えられた。

その内容は、
‘ 武道派 ’ に慣れとの事だった。

夏美『・・・了解。じゃア、兄貴に会いに行つてこようかね。』と呟いた。

第14章。ワカバ危険！？そして・・・夏美土方との再会！？完。

第14章。ワカバ危険！？そして・・・夏美土方との再会！？（後書き）

今章も御付き合ってくださいまして有難うございます。

其れでは毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

夏美はワカバの隠れ家を後にしアレから夜の路地裏を歩いていた。

後ろの気配に気づき「・・・居るんでしょ？兄貴。」

すると後ろから土方がタバコを吸いながら「よオ。夏美。」

夏美「・・・兄貴。話がある。」

土方ニヤリと笑い「奇遇だな」。俺もだ。」

そう言い土方に手招きをされ路地裏へと消えて行った。

夏美「第15章。夏美と土方の密会？」

「次章もどうぞ宜しくね。」以上です。後お詫びです土方さん今章
出ませんでした

(汗) 申し訳ありません。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第15章。夏美と土方の密会？（前書き）

今章は夏美と土方さんが再び再会しちよつとばかり密会？を行う予定です。

長丁場になる恐れもあり。尚、大変に申し訳ありませんが明日は出払うので更新は

お休みさせて頂きます（此方は）

第15章。夏美と土方の密会？

アレから、ライカからワカバの指示を仰いだ夏美は隠れ家を後にし夜散歩で江戸の町を歩いていた。

そして・・・とある路地裏へ入り何時もの様にタバコに火を灯しながら。

後ろの気配に気づき「・・・居るんでしょ？」兄貴。「

すると後ろから土方がタバコを吸いながら「よオ。夏美。」と路地裏から出て来た。

そして夏美チラと土方を見て「・・・兄貴。話がある。」

土方ニヤリと笑い「奇遇だな」。俺もだ。「

そう言い土方に手招きをされ暗闇の中に消えて行きとある料亭に連れて行かれた。

此処は、真選組と鬼兵隊が鼻肩にしている料亭だ。

料亭に入ると女将らしき女性が現れ土方に一礼し土方が何時もの部屋と言うと案内する。

2階の大きな部屋に案内された。

と同時にお酒を持って「ごゆっくり。」と再度一礼をしその部屋を後にした。

夏美襖から外を見ていてタバコを吸いながら苦笑いをし「やれやれ。凄いな。うちの隠れ家より豪勢だね。」と続け様に土方を見て「何？兄貴。江戸に来た時はいつも此処によっているのかい？」

土方酒を徳利に注ぎながら「まア・頻繁につう訳でもねエがな。」と続け様に夏美に「ほらよ。」と

酒の入った徳利を渡す。

夏美受け取り「・・・有難う。」

そして・・・土方も自分の分を徳利に酒を注ぎ飲み始めて夏美を見て「そっぴゃあ広州の連中が、天道衆の連中と手エ組んだそうだなア？」

夏美一瞬驚きながらも「・・・知っていたんだ。」

土方ニヤリと笑い「ああ・・・悪いが、盗聴させてもらったぜエ、？」

夏美苦笑いをしタバコを吸いつつ「・・・悪趣味だよ、兄貴。」

ん？待てよ？今・・・真選組って鬼兵隊ともつるんでいるんだよね？

って事はまさか・・・？

土方夏美の心を察知したのか再びニヤリと笑い「もちろん。高杉の奴も知っているぜ？」

何ですとオオオ！！！！！し、晋助様にも知られているウウウ！？

夏美は頭を抱え込んだ。

土方「多分高杉の奴も後から部下数人引き連れて此処に来るだろうよ。」

夏美大きなため息をつき「・・・兄貴だから話そうと思ったのになア。」

土方タバコを再び口に加え直しニヤリと笑い「何だア？高杉の奴が

そんなに嫌いかア？」

夏美苦笑いをしながら「違うよ。只……今さア桂さんともつるんでいるから、会いづらくて。」と

続け様に「……兄貴を通じて晋助様に伝えてもらおうかなア？なアんで……。」

其れを聞いた土方が襖の所に「だ、そうだ？高杉。」

夏美「……へ？」と思わず間抜け声を出してしまった。

と同時に襖が開き高杉が万斉と武市と雪乃を連れて入って来て夏美

を見てニヤリと笑い「よオ。夏美イ。広州の襲撃以来かア？」

夏美は思わずひきつり笑いをしていた。

と同時に夏美の側に雪乃が来て「お疲れさん！夏！」と肩をポンと叩き隣に座った。

夏美ひきつり笑いを崩さずに「・・・よオ。雪。お疲れさん。」とグテとなっていた。

第15章。夏美と土方の密会？完。

第15章。夏美と土方の密会？（後書き）

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

其れではほぼ毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

夏美「・・・今日、晋助様来るなんて聞いてないし。」

雪乃苦笑いをし「ごめんよ。夏。アレから兄さん、トシと共に夏達のやり取り聞いていたもんだからさア。」

夏美はアとため息をつき雪乃を見て「・・・雪。」

雪乃頷き「分かっている。オウガ様からのご指示はこちらは今回は
‘武道派’でしょ？」

夏美頷き「あア・・・もしかしたら。お前さんにも動いてもらうかも
知れねエ。」

頼めるか？」

雪乃ニヤリと笑い「もちろん！任せなよ！リーダー！」

夏美ニヤリと笑い「頼りにしてるよ？相棒？」

と続け様に土方「で？どうするんだ？俺等と手を組むか？」

と夏美に持ちかけた。

雪乃「第16章。ワカバ幹部組と土方達の密会そして・真選組 & 鬼兵隊と手を組む？」「次章もどうぞ宜しくね！」

以上です。今章も次章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第16章。ワカバ幹部組と土方達の密会そして・・・真選組&鬼兵隊と手を組む

最初にお詫びを……。昨日、此方は更新休みとお伝えしましたが・・・時間が出来ましたので更新させていただきました。

其れでは本編へどうぞ。

第16章。ワカバ幹部組と土方達の密会そして・・・真選組&鬼兵隊と手を組む。

此処は料亭内の土方の部屋。

アレから夏美は土方と密会し・・・しまいには高杉も部下を引き連れてやって来ていた。

そして夏美タバコを吸いながら「・・・今回、晋助様来るなんて聞いてないし。」

雪乃苦笑いをし「ごめんよ。夏。アレから兄さん、トシと共に夏達のやり取り聞いていたもんだからさア。」

夏美はアとため息をつき雪乃を見て「・・・雪。」

雪乃頷き「分かっている。オウガ様からのご指示はうちらは今回は『武道派』でしょ？」

夏美頷き「あア・・・もしかしたら。お前さんにも動いてもらうかも

知れねエ。

頼めるか？」

雪乃ニヤリと笑い「もちろん！任せなよ！リーダー！」

夏美ニヤリと笑い返し「頼りにしてるよ？相棒？」

と続け様に土方夏美を見てニヤリと笑い「で？どうするんだ？俺等と手を組むか？」

と夏美に持ちかけた。

夏美タバコを吸いながら「元々、広州と天道衆が手を組んでいた事が分かってからそのつもりだった。

広州はともかく、天道衆はかなり厄介だから下手をすればうちもつぶされかねない。」

雪乃も懐からキセルを取り出し刻みタバコを入れ火を灯し始め吸い始め再び夏美を見て「だから、兄さんと手組もうと思ったの？」

夏美ニヤリと笑い「ああ、チィと奴ら（天道衆）にうちら（人間様）の力を見せつけようと思ってな。

見下している見てエだからさ。」

雪乃もニヤリ笑いがえし「そうだね。でも……。ツラどうするの？」

夏美軽くため息をつき「……あの人は型物だから中々一筋縄ではいかんと思うよ。其れに、今お前さんのお兄様と‘袂’たってるでしょ？今更……。」

紅桜の件ですでに2人は互い違いなり袂をたっていた。

雪乃は其れを聞いて顔をしかめた。

すると高杉キセルを吸いながら「俺ア、別に構わねエゼエ？ツラが居てもいなくてもよオ。」

其れを聞いた雪乃は高杉を見て「・・・兄さん。」

高杉ニヤリと笑い「どうせ。派手に祭りするんだったらよオ。其れなりに必要だろ？」

夏美察知したのか・・・頷き急いで携帯を取り出し「あ！みかんか！？私じゃアだ！」

すると電話越しで『みかんではありません！！美香子ですよ！！！お久しぶりです。どうしました？夏美さん？』

その声の主は桂の側近である小暮美香子通称みかん（笑）

その通称になったのかは不明（笑）

（詳しくは、第二作目でどうぞ）（笑）

夏美タバコ吸いながら「なあ・唐突で悪いんだが、また近いうちにお前さんのボス（ツラさん）にお会いできるか？」

美香子頷き『今週でしたら何時でも大丈夫そうです。』

夏美頷き「了解した。じゃア・今週中にでも隠れ家に伺うとお伝えしてくれ。」

美香子『了解です。夏美さんもしかして私達に着いてくれる気になつたんですか?』

夏美「ぎアんねんでしたア。私しゃアはワカバ以外着くつもりはな
いよ。じゃ!そういう事で!」

「じゃね!と電源を切る。」

すると雪乃高杉に「ねエ・・・兄さん。」

高杉「何だア?雪乃?」

雪乃「夏がヅラに会いに行く時私も行っても良い?」

高杉クと笑い「別に構わなねエよ。あの型物野郎を説得できるか見ものだなア。」

すると雪乃嬉しそうに「ありがとう！兄さん！大好き！！！」と抱きついて行った。

其れを見た万斎は「……………本当に、晋助は妹だけには甘いでござるな。」

武市「……………ですね。」

夏美苦笑いをし「……………兄弟いるって事は大体そんなもんです。」

万斉「さようか。」と続け様に「後の問題は・・・白夜又でござるな。」

すると夏美の携帯が鳴った。

第16章。ワカバ幹部組と土方達の密会そして・・・真選組&鬼兵隊と手を組む？完。

第16章。ワカバ幹部組と土方達の密会そして・・・真選組&鬼兵隊と手を組む。

今章も御付き合い下さいまして有難うございます。

其れでは毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ(笑)

夏美にかかって来た一通の電話。

夏美「はい、夏美です。あア・・・新八君かどうした？え！？何だつて！？幕府が

白夜叉組を裏切った！？んでもって、天道衆組に寝返ってうちらワカバを含む攘夷派を一斉清掃だった！？うん！うん！分かった！情報有難う！！」

すると夏美急いで連絡をライカにした「あ、相棒か！？私しゃアだ！！チイとヤバい事になった！！あいつを探してくれ！大至急だ！頼む！！」そう言い携帯を切って雪乃に「雪ッ！ヅラさんに会う前に・・・銀の旦那に会いに行くぞ！！」

雪乃察知したのか「はいよ！！」

夏美タバコを吸い続け「・・・これを機に広州を含む天道衆組を返りうちにしてやらア！！」と窓を見て行った。

雪乃苦笑いをし「ありゃア・ちいと、暴走は避けられそうにないね」。

高杉クククと笑い「別に良いんじゃないかア？」

土方も笑いがえし「違いねエ。その方が楽しめるからな。」

万斉心の中で・まったくこの二人は。

夏美「第17章。白夜又組幕府から攘夷派もどり？そして・夏美達銀時達に会う？」「次章もどうぞ宜しくね！」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第17章。 白夜又組幕府から攘夷派もどり？そして・・・夏美達銀時達に会う？

今章は、ワカバが真選組&鬼兵隊と手を組んだ所から書かせて頂く予定です。

第17章。白夜叉組幕府から攘夷派もどり？そして・・・夏美達銀時達に会う？

アレから夏美達は雪乃と合流し料亭で土方達と話をしていた。

そして夏美の携帯に一本の連絡が入る。その内容とは・・・。

まさに驚きを隠せないものだった。

夏美「はい、夏美です。ああ・・・新八君かどうした？え！？何だつて！？幕府が

白夜叉組を裏切った！？んでもって、天道衆組に寝返ってうちらワカバを含む攘夷派を一斉清掃だった！？うん！うん！分かった！情報有難う！！」

すると夏美急いで連絡をライカにした「あ、相棒か！？私じゃアだ！！チイとヤバい事になった！！あいつを探してくれ！大至急だ！頼む！！」そう言い携帯を切って雪乃に「雪ッ！ヅラさんに会う前に・・・銀の旦那に会いに行くぞ！！」

雪乃察知したのか「はいよ！！」

夏美タバコを吸い続け「・・・これを機に広州を含む天道衆組を返りうちにしてやらア!!」と窓を見て言った。

雪乃苦笑いをし「ありゃア・・・ちいと、暴走は避けられそうにないね」。

高杉クククと笑い「別に良いんじゃないかア?」

土方も笑いがえし「違いねエ。その方が楽しめるからな。」

万斉心の中で・・・まったくこの二人は。

と続け様に万斉夏美を見て「で?白夜叉の所には誰がいくでござる?」

夏美タバコを吸い続けて「私が行きます。万斉さん。」

と続けて雪乃も「じゃ・・・私も。」

夏美「いや。雪。お前さんは此処にいな。只でさえ、白夜叉組の中には銀の旦那はともかく・・・」

他の隊員はどう思っているか分からんから。」

雪乃「・・・一人で大丈夫か？」

夏美ニヤと笑い「あア。」

そう言い夏美はタバコに火を灯し料亭を後にしようとしたその時部屋が開いた。

そして「・・・よオ。高杉。邪魔するぜ？」と白の着流しを着た銀時が新八そして神楽を引き連れて入って来た。

高杉ニヤリと笑い「よオ。銀時イ。夏美が広州を襲撃した時以来だ

なア。」

と続け様に「で？お前こっち工攘夷派に戻るのかア？」

銀時フツと笑い「・・・野暮な事聞くんじゃねエ、よ。高杉。あアそのつもりだ。」

高杉も満足そうに「そうかい。そりゃア頼もしいねエ。」と続け様に雪乃が嬉しそうに「銀時っ！！」と

銀時に抱きしめた。銀時「！！おまつ雪乃か！？」と驚いていた。

雪乃にこやかに「うん！！私雪乃だよ！久しぶり！」

銀時はにこやかに雪乃の頭をなでていた。

すると神楽が後ろから現れて「・・・銀ちゃん。この女こいったい誰ア
ルか？」

銀時「ああ・・・こいつはア高杉雪乃つうてな。俺の馴染みだ。」

其れを聞いた新八「へ？た、高杉？まさか・・・。」と恐る恐る高
杉を見て高杉は新八の視線にニヤリと

笑った。

銀時も其れを察知し「オウ。よく分かったな。新八。こいつはア、
高杉の実の妹だ。」

其れを聞いて神楽と新八は思わずその場で固まっていた。

雪乃苦笑いして「・・・その通りよ。鬼兵隊総督高杉晋助の実の妹よ。宜しくね。」

一方、夏美は只只タバコを吸い続けていた。其れも苦笑いを浮かべて・・・。

と同時に高杉がクククと笑い「まア・・・そついう事だアガキ共悪い奴じゃねエから仲良くしてやってくれや。」

新八はひきつり笑みを浮かべながら「は、ハイ。分かりました高杉さん。」

神楽もひきつり笑みを浮かべながら頷いた。

と同時に高杉銀時を見て「オイ。銀時イ。そろそろ妹離せやア。」

銀時「あア・・・わあつたよオ。オイ・・・雪乃。そろそろ兄貴の所に戻れや。」

雪乃「えエ・・銀時の所も少し居たい。」と駄々こねてみる。

銀時「い、いやね。雪乃ちゃん？そんな事したら銀さんの命が削れちゃうからね？」

すると後ろからジャキンと刀を抜刀する音がした。

夏美其れを見て慌てて「お、落ち着いてエエえ！！晋助様アアアア！！！！」と高杉に駆け寄り止めようとした。と同時に「雪イイイ！！頼むからお兄様の下に戻ってくれやアアア！！！！」と悲願する。

雪乃はその様子を見て慌てて高杉の下に戻って行った。

高杉は満足そうに刀を鞘に収めた。

夏美は安堵のため息をつきその場から離れた。

すると神楽が「・・・夏姉エ。」

夏美「どった？神楽ちゃん？」

神楽「・・・片目『シスコン』アルか？」

と小声で尋ねた。

夏美はその質問に思わず固まってしまった。

晋助様がシスコンだなんて・・・。

死んでも言えるわけねエエエエ!!!!!!

と内心焦っていた。と同時に神楽の耳元で小声で「いやね・・・雪の事になると、心配、なんだよ。やっぱり、御兄妹、だからさ。」

神楽「ふん。」ととりあえず納得した。

そして夏美は相変わらずタバコを吸い続けていた。

第17章。白夜又組幕府から攘夷派もどり?そして・・・夏美達銀時達に会う?完。

第17章。 白夜叉組幕府から攘夷派もどり？そして・・・夏美達銀時達に会う？

今章も無事に更新完了しました。

今章も御付き合いました。有難うございます。

其れでは毎回のグタグタ予告をどうぞ（笑）

高杉は夏美を見てニヤリと笑い「オイ。夏美イお前エじゃじゃ馬姫に何て言っただア？」

夏美其れを聞いて「え？い・・・いや。特に何も言っていないよ？晋助様。」

土方もニヤリと笑い「その割には顔が引きつってんじゃねエか？」

すると合流した夏美の相棒である電気ネズミのライチュウが「・・・あア、あれはですね神楽様が夏美様に『片目シスコンアルか』？という質問してきて其れで夏美様は『只の心配性』なんだよって答えしていました。』とあっさり

質問内容をばらす。すると夏美「ライチュウウウウ！！！！お前エエと言っ奴はアアアア！！！！」ライチュウ「・・・えエエエ！！！！わ、私は只・・・そのままアア！！！！夏美『そう言っのは晋助様達が居ない時にこっそり銀の旦那にでも言えエエエ！！！！』と拳を振りまわし「お前エのせいで晋助様達の前で

恥かいたしまったじゃねエエカアア！！！！」と顔真っ赤にしてライチュウを追いかけまわしていた。と同時に「夏美かアアアん！！居るかアアア！！！！」と女の声がして夏美勢いよく襖をあけ「夏美かんじゃないえエ！！！！夏美だアア！！何回言えば分かるんだこの馬鹿レナアアア！！！！」とどび蹴りをくらわしていた。高杉達は思いつきり

笑っていた。

ライチユウは安堵の表情を見せていた。

ライチユウ『第18章。夏美の相棒である電気ネズミライチユウ登場で、情報屋レナも登場？にぎやかになる料亭？』『次章もどうぞよろしく願っています。』以上です。尚次章はポケモン要素も入る予定ですので苦手な方はお退き頂く事をお勧め致します。

第18章。 夏美の相棒である電気ネズミライチュウ登場で、情報屋レナも登場？

今章は少々ポケモン要素も含まれています。苦手な方は申し訳ございませんがお引き取りの程よろしくお願い致します。長丁場と編集予定です。

第18章。夏美の相棒である電気ネズミライチュウ登場で、情報屋レナも登場？

夏美はアレからタバコを吸い続けていた。

・・たく、神楽ちゃんも変な事聞いてくるよなア。

参ったね。と同時に高杉と眼が合う。

すると高杉は夏美を見てニヤリと笑い「オイ。夏美イお前エじゃじや馬姫に何て言ったんだア？」

夏美其れを聞いて「え？い・・いや。特に何も言っていないよ？晋助様。」

土方もニヤリと笑い「その割には顔が引きつってんじゃねエか？」

するといつの間にか合流した夏美の相棒である電気ネズミのライチュウが「・・あア、あれはですね神楽様が夏美様に、片目シスコンアルか？という質問してきて其れで夏美様は、只の心配性、なんだよって答えていました。」とあっさり質問内容をばらす。

すると夏美「ライチュウウウウ！！お前エエと言う奴はアアアア！！！！」ライチュウ「・・えエエエ！！！！わ、私は只・・そのまアアア！」夏美「そう言うのは晋助様達が居ない時にこっそり銀の

旦那にでも言えエエエ!!!」と拳を振りまわし「お前エのせいで晋助様達の前で

恥かいちまったじゃねエエカアア!!!」と顔真っ赤にしてライチユウを追いかけまわしていた。と同時に「夏美かアアアん!!!居るかアアア!!!」と女の声がして夏美勢いよく襖をあけ「夏美かんじゃねえエ!!!夏美だアア!!!何回言えば分かるんだこの馬鹿レナアアア!!!」ととび蹴りをくらわしていた。高杉達は思いつきり笑っていた。

ライチユウは安堵の表情を見せていた。

しかし……。

夏美「ライチユウウウ!!!」

ライチユウ慌ててまた子の所に駆け寄りひつついた。

また子慌てたが……にこやかに頭をなでた。

すると「ライチュウウてめエ・・・主人の私しやア以外に懐くとはネエ・・・。」

ライチュウウ『ひい！！そっ・・・そんなことは無いです！！』

ひきつり笑いを浮かべ急いでまた子から離れて行った。

するとレナタイミング悪しながらも「夏美かアあん！！私の話聞いてくれやア。」

夏美「だアアあから！！夏美かんじゃねえ！！夏美だつて言ってるうがアア！！！！この馬鹿レナアア！！！！！！」と思いつきり蹴りに行った。

そのすきにライチュウウは逃げようとしたが高杉にヒョイと捕まれ膝に置かれライチュウウの頭をいつの間にか撫でていた。

そして、夏美レナからとりあえず情報もらいワカバの仲間に洗うよう伝え去って行った。

夏美不機嫌そうに再びタバコを吸い続けながら「あのバカ野郎。今度またあんなニツクネームで呼んだらもっかいぶん殴ってやら。」とドカとその場に座り込んでいた。

雪乃も苦笑いをしつつ「しかしまアアンタらも飽きないねエ。まるで桂^{ツラ}を見ているみたいだ。」

と同時に「何で好きじゃないの?」

夏美「・・・何か、共食いしているみたいでいやだ。あの酸っぱさが嫌だ。あの意味なさそうなかさが嫌だ。存在自体が嫌だ。」となつみかんの事を否定続けて「んで、あの果実と一緒にされるのが嫌だ。」

其れを聞いた銀時は思わず笑っていた。と同時に「まア・・・面白いじゃねエ?夏美かんってな。」

夏美「・・・銀の旦那だから蹴りませんが、あいつ（レナ）がこの場にいたらまた蹴り飛ばしていましたよ。」と同時に「アレ？うちの天然馬鹿ネズミ（ライチユウ）は？」

雪乃「うちの兄さん所。」

すると安心しきったのが高杉の膝でいつの間にか寝ているライチユウが居た。

夏美・・・。

あの野郎がア。あんな幸せな寝顔されていたらこっちもきれるわけにもいかねエじゃないか。

晋助様の所だと、突っ込めないじゃねエか！ってかうらやましいぞ！！今畜生！！。

すると神楽夏美を見て「夏姉。」

夏美「んア？何？神楽ちゃん？」

神楽「もしかしてうらやましいアルか？」

夏美その事を聞いて思わずタバコの煙が気管に入ったのかせき込んで「な、何言ってるのかな！？神楽ちゃん！？」

神楽「だって、うらやましそうな顔していたアル。」

夏美「何で相棒であるあの天然ボケネズミに私しやアがうらやましそうな顔しなきゃならんの？」

雪乃

・・・凶星だな。と心の中で笑っていた。

高杉クククと笑い「何だア？夏美イ？そうならそうと言えば良いじやねエか？素直じゃねエ奴だア。」と

続け様に来いよと手招きする。

夏美は顔真つ赤にして「ちよ、ちよつとごめん！！晋助様！！気分転換にちよいと別個の部屋行ってくる！！」そう言い出て行った。

土方其れを見てククと笑い「・・・かわいい野郎だ。」

高杉もニヤリと笑い「あア。そうだなア。」

と続け様に武市「・・・夏美様も意外と『女性らしい』所お見せになるんですねエ。男勝りの方と思って場まりでしたから。」

万斉も「そつでしげなるな。」

するとまた子「・・・万斎はともかく先輩手出すんじゃないっスよ？」

武市「何ですか？」

また子「・・・ロリコンの手にかかったら大変なことになるッス。」

武市其れを聞いて「ロリコンじゃない！フェミニストです！！！」

雪乃「・・・ツラみたいなセリフはくの、鬼兵隊（此処）にもいたのね。」

と呟いていた。

何故か知らないが、平和なワカバ幹部と鬼兵隊&真選組一派でした。

第18章。夏美の相棒である電気ネズミライチュウ登場で、情報屋
レナも登場？にぎやかになる料亭？完

第18章。夏美の相棒である電気ネズミライチュウ登場で、情報屋レナも登場？

今章も無事に更新完了致しました。
遅くなって申し訳ございません。

其れではほぼ毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

ひとまず平和に過ぎ去った料亭での一時だが、其れもつかぬ間だった。

アレから夏美は別個の部屋に一人ただずんでいた。

すると一種の気配を感じ「・・・誰です？其処に居るんでしょう？」
すると笠をかぶった人物が現れる。

「・・・失礼ですが、ワカバのリーダー兼幹部の橘夏美さんですね？」

夏美「・・・そうですが。あなたは？」

「・・・天道衆から放たれた刺客の香蘭コウランと申します。天道衆及び
広州からの命で貴女を襲撃させて頂きます。」とニコリと笑みを浮かべた。

夏美はその事を聞き急いでタバコを消し翡翠刀へと手をかけた。

と同時に「・・・何をためしたいんだか知らねエが、相手させてもら
うよ。」

翡翠刀を鞘から抜き香蘭へと斬りかかった。

一方、此処は高杉達が居る部屋。

ライチユウが一瞬目が覚めてこわばった顔をする。

と同時に雪乃の顔を見て「・・・雪乃様。」

雪乃も頷き「夏の奴に何かあったね。」

と同時に「・・・血の匂い？」

夏っ！！！！

すると夏美の事が心配になったのか神楽がいつの間にか様子を見に行
って

慌てて戻って来た「銀ちゃん！！！！」

銀時「どうしたア？神楽？」

神楽「た、大変ネ！！夏姉が天道衆から送られた刺客女に襲われているネ！！！」

雪乃は其れを聞いて慌てて刀を持ち「夏ウウ！！！」と部屋を後にした。

高杉「雪乃！！チイ俺達も行くぜ！！来島ア！！万斉！！武市用意しろ！」

また子達も頷いた。そして土方真選組に連絡をして隊士を呼んだ。

すると銀時神楽に「で？その女の名は？」

神楽「・・・香蘭って言っていたネ。」

銀時其れを聞いて驚いて「香蘭といやア。闇の花と言われた始末屋じゃねエか！！炎龍と互角。やべエ！あの女多分仲間隠しているぜ。神楽新八俺達も行くぞ！！！」

神楽達も頷き銀時と共に部屋を出て行った。

ライチユウ不安そうに『・・・夏美様。』

高杉クシャと頭をなで「大丈夫だ。あいつは必ず連れ戻してやらア。」

ライチユウ頷き『・・・お願い致します。高杉様。』

そして高杉フツと笑いまた子たちと共に部屋を後に、そして土方も続けて後にした。

ライチユウは只「祈るしか」出来なかった。

雪乃「第19章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？
そして・・・。（前編）」「次章もどうぞ宜しくね！」

以上です。其れは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第19章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？そして・・・

(前編)

今章は、前章よりちょっとシリアス？です。

残酷シーン等ありの長丁場で前後編でお送りさせて頂く予定です。

多分編集可能性あり？です。ご注意ください・・・。

第19章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？そして・・・

(前編)

ひとまず平和に過ぎ去った料亭での一時だが、其れもつかぬ間だった。

アレから夏美は別個の部屋に一人ただずんでいた。

すると一種の気配を感じ「・・・誰です？其処に居るんでしょう？」
すると笠をかぶった人物が現れる。

「・・・失礼ですが、ワカバのリーダー兼幹部の橘夏美さんですね？」
夏美「・・・そうです。あなたは？」

「・・・天道衆から放たれた刺客の香蘭コウランと申します。天道衆及び
広州からの命で貴女を襲撃させて頂きます。」とニコリと笑みを浮かべた。

夏美はその事を聞き急いでタバコを消し翡翠刀へと手をかけた。

と同時に「・・・何をためしたいんだか知らねエが、相手させてもら

うよ。」

翡翠刀を鞘から抜き香蘭へと斬りかかった。

一方、此処は高杉達が居る部屋。

ライチュウが一瞬目が覚めてこわばった顔をする。

と同時に雪乃の顔を見て『・・・雪乃様。』

雪乃も頷き「夏の奴に何かあったね。」

と同時に「・・・血の匂い？」

夏っ！！！！

すると夏美の事が心配になったのか神楽がいつの間にか様子を見に行つて

慌てて戻つて来た「銀ちゃん！！！！」

銀時「どうしたア？神楽？」

神楽「た、大変ネ！！！！夏姉が天道衆から送られた刺客女に襲われ

ているネ!!!」

雪乃は其れを聞いて慌てて刀を持ち「夏ウウ!!!」と部屋を後にした。

高杉「雪乃!!!チイ俺達も行くぜ!!!来島ア!!!万斉!!!武市用意しろ!」

また子達も頷いた。そして土方真選組に連絡をして隊士を呼んだ。

すると銀時神楽に「で?その女の名は?」

神楽「・・・香蘭って言っていたネ。」

銀時其れを聞いて驚いて「香蘭といやア。闇の花と言われた始末屋じゃねエか!!!炎龍と互角。やべエ!あの女多分仲間隠しているぜ。神楽新八俺達も行くぞ!!!」

神楽達も頷き銀時と共に部屋を出て行った。

ライチュウ不安そうに『・・・夏美様。』

高杉クシャと頭をなで「大丈夫だ。あいつは必ず連れ戻してやらア。」

ライチユウ頷き「・・・お願い致します。高杉様。」

そして高杉フツと笑いました子たちと共に部屋を後に、そして土方も続けて後にした。

ライチユウは只「祈るしか」出来なかった。

ああ・・・やはり、天は夏美様にどうして安らぎを与えてくれるのでしょうか？

これは、あの方が一度闇に堕ちてしまった罰ですか？

一方、夏美はと言うと・・・右腕から血が滴れながらもあれから・・・

・・。

天道衆の刺客である香蘭と相変わらず対立していた。

ガキイイイン！！！！！！！

ガキイイイイン！！！！！！

とお互いに刀が交わる音がする。

夏美

チィ！！！！流石に天道衆からの刺客だね！！！！一筋縄ではいかないな。

香蘭「・・・考えてる暇あるのであれば、少しは己のみを護る手立てを考えたらどうです？」とクスリ。

夏美フンと鼻で笑いながら右腕に滴れた血をペロと軽くなめ「・・・別に。余計な事何ぞア考えちゃアいネエさア。」と続け様に「・・・只、アンタは私じゃアの事少し見くびっていないかい？」

香蘭「・・・別に見くびつちやあ居ませんよ。嘗ての闇の始末屋から今の生活で（腑抜け）になってしまった貴女には私は、興味がないのですよ。」そう言い刀を再度夏美に向けて「・・・もうくたばって下さい。貴女は、邪魔な存在'です。」そう言い夏美に突進していった。

と同時に夏美も潔くその場を引いて応戦し始めた。

第19章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？そして・

。。（前編）完。

第19章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？そして・・・

(前編)

今章も無事に更新完了致しました。

其れではほぼ毎回のグタグタ予告をどうぞ(笑)

雪乃「夏ウウウ!!!」と香蘭と夏美が対峙している部屋に行った雪乃そしてその光景を見て啞然とする。

その光景は何といつの間にか血まみれになって倒れ込んでいる夏美の姿だった。

そして香蘭クスと笑い「・・・闇の始末屋ともあるうものがこんなにもあっけなかつたなんて。馬鹿みたい。」

雪乃は其れを聞いて何かがこ途切れて・・・。

神様は、また私から‘大切なもん’奪うのか・・・。

この国はあの人(先生)を私から奪いなおかつ・・・侍からも刀を奪った。

そして、仲間達を同志達をも・・・。

ライカホツとため息をついた。

しかし……。

雪乃は香蘭を睨みつけた凄い形相とそして獣の眼で。

銀時「……こいつはアヤベエな。」

銀時「第20章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？
そして……。 (後編)」「次章もどうぞよろしく頼むわア！」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第20章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？そして・・・

(後編)

今章は前章の続きです。残酷シーン等長丁場ありの可能性あります。

第20章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？そして・・・

（後編）

一方、高杉達より部屋を出た雪乃は夏美のいる部屋に向かって走り続けていた。

そして心の中でまるで祈るかのように・・・。

夏！！！！！頼むから！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！無事でいてくれ！！！！

もう攘夷戦争（あの時）と同じ思いはしたくない！！！！

雪乃「夏ウウウ！！！！」と香蘭と夏美が対峙している部屋に行った雪乃そしてその光景を見て啞然とする。

その光景は何といつの間にか血まみれになって倒れ込んでいる夏美の姿だった。

そして香蘭クスと笑い「・・・闇の始末屋ともあるうものがこんなにもあっけなかつたなんて。馬鹿みたい。」

私の中で再び、獣が、宿る。

と同時にワカバであるライカも合流し、「相棒！！！！！」

「！！！！！！」と慌てて駆け寄り「しっかりしろ！！！！相棒！！！！」

すると夏美が少々ながらも意識を取り戻しながら「・・・ら、ライカか？」

ライカホツとため息をついた。

しかし・・・。

雪乃は香蘭を睨みつけた凄惨な形相とそして獣の眼で。

銀時はその様子を見て冷や汗をかきながら「・・・こいつはアヤベエな。」

そして刀を抜刀し香蘭に向けて斬りかかって行った。

そう、其れはまるで高杉晋助（兄）と同様な獣の笑みだった。

雪乃はキレルと獰猛な獣を発動する。

そうある意味達が悪いのだ。

雪乃クククと笑い「さア・・・もう此れにて御仕舞めエだア。」

と香蘭に向けて再度刃を振り下ろした次の瞬間ドシュッ！！！！と雪乃の右腕に刀が突き刺さった。

ポタポタと血が滴れる。

夏美慌てて体を起こし「雪！！！！」と叫びながらも負傷した体を引きづりだしながら立ち上がり尚戦おうとした。

と同時に高杉が合流し雪乃に向けて刀を投げた奴をいつの間にか見つけずばやく抜刀しそいつに思いつきり投げた。

「グアアアア！！！」と叫び声がしてその場に倒れ込んだ。

そして高杉「……………てめエ等俺の妹と俺の『黒猫』（夏美）に手エ出した代償は大きいイゼエ？覚悟しとくんだなア。」と睨みつけながら言った。

すると香蘭はいつの間にか仲間を呼び高杉達に攻撃するよう命じた。

第20章。夏美天道衆の女刺客香蘭の襲撃を受け重症か！？そして・
。（後編）完。

と叫びながら夏美を斬りかけた女を氷棒で刺し殺した。

と同時に「てめエ等・・・此処から生きて帰れると思うなよ」？
その様子はもうすっかり死女ライカの顔だった。

また子「第21章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！
？そして天道衆刺客組に死女の舞いが舞う！？（前編）」「次章も
どうぞ宜しくつス！！」

以上です。今章も前章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第21章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！？そして天道衆刺客組

今章は夏美の相棒であるライカが切れます（笑；）

でおつかない？事になっています。此方も長丁場残酷シーン等あり
の予定ですので

ご注意を・・・。

と叫びながら夏美を斬りかかった女を氷棒で刺し殺した。

と同時に「てめエ等・・・此処から生きて帰れると思うなよ」？
その様子はもうすっかり死女ライカの顔だった。

そして香蘭慌てて「・・・お前達！！始末しなさい！！！」と今度は
命令方に回る。

ライカタバコに火を灯し睨みつけ「・・・見せてやるよ。お前さん達
に『死女の舞い』っう奴をよオ。」

そして「相棒（夏美）を傷つけた罪その命で償いな！！！！！」と叫
んだ。

と同時に一気にライカの氷棒が香蘭の部下に突き刺さる。

そして・・・。

「氷龍月！」と技の名を言い指でパチと鳴らした後部下達は散って行った。

香蘭は其れを見て只只驚いて固まってしまった。

と同時にライカはタバコに火を灯し香蘭に氷棒を向けて「・・・お次はアンタの番だ。‘覚悟は良いかい’？香蘭さんよオ。」すっかり死文化していた。

其れを見た香蘭も再び刀を握り締めてライカに向かって「なめんじやないわよ！！この小娘がアア！！！」と斬りかかりに行った。

第21章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！？そして天道衆刺客組に死女の舞いが舞う！？（前編）完。

第21章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！？そして天道衆刺客組

な、長丁場なのかしら？此れ（笑；；）

久しぶりの更新となりました。此方も御付き合い下さいまして有難うございます。其れではほぼ毎回ですがグタグタ予告をどうぞ（笑）

相棒（夏美）の危機に遂に立ち上がったライカ。

久々に彼女の宿命が目覚めた。^{サダメ}

香蘭と互いに対立しているライカ

ガキイインガキイインとお互いの武器の交わる音がする。

そしてライカ「相棒を傷つけたその代償は大きいよ??香蘭さんよオ。」

そう言い隙を見て香蘭に技を放つ。

ライカ「第22章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！？そして天道衆刺客組に死女の舞いが舞う!?（後編）」「次章もどうぞ宜しくね!!」以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第22章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！？そして天道衆刺客組
今章は前章の続きです。

多分長丁場の残酷シーン等ありの編集可能性あります。

第22章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！？そして天道衆刺客組

相棒（夏美）の危機に遂に立ち上がったライカ。

久々に彼女の宿命が目覚めた。^{サタメ}

香蘭と互いに対立しているライカ

ガキイインガキイインとお互いの武器の交わる音がする。

そしてライカ「相棒を傷つけたその代償は大きいよ??香蘭さんよ
オ。」

そう言い隙を見て香蘭に技を放つ。

一方、香蘭もライカの技を避けつつもライカに攻撃する。

お互いに血飛沫が舞う。

ライカタバコ吸いながら軽く舌打ちして心の中で・・・。

ヤバいね！！此れじゃアラちがあかんわ！！！！

其れに、倒れ込んでいる夏美を見てこいつをワカバの病院に連れて行かなきゃならんし・・・。

もうアレで仕舞にするか。

そう眩き氷棒をもう一本用意した。

ライカ「じゃ・・・お前さんにとっておきの‘死の舞い’をお見舞いしてやるよ。」そしてライカの周りには冷たい風と雪が舞い始めた。

と続け様に夏美をチラとみて「・・・悪いな。相棒。寒いだろうが此処は一つ我慢してくれな？」

そう言い「花鳥の舞いよ！氷の死の舞いよ！！！死の鳥よ！！！舞えよッ！！花鳥氷死鳥波！！！」

そう言いライカの氷棒はまるで鳥の舞いのごとく香蘭に突き進んでいった。

そう香蘭にはなすすべがなかった。

そして……。

香蘭の体をライカの氷棒が突き刺さって行った。

と同時に香蘭は血を吐きながらゆっくりとゆっくりとゆっくりとそ
の場に崩れ堕ちた。

そして・・・氷がまとわりつきながら包み込みパン！！！！！！
と砕け散った。

ライカはそんな香蘭をチラと見てタバコに火を灯しながら夏美の側
に急いで行った。

ライカ夏美の体を揺さぶり「オイ！！オイ！！大丈夫か！！？相棒
！！？」

夏美背中を軽く支えつつも「あ、あア・・・なあんとか大丈夫見てエ
だ。」と意識を取り戻した。

ライカほつとため息をつき「良かった。ゆっくり動け？」

夏美頷き「あア。」

そう言いひとまず高杉の所に向かった。

第22章。夏美危機！？そして・死女ライカ目覚める！？そして
天道衆刺客組に死女の舞いが舞う！？（後編）完。

第22章。夏美危機！？そして・・・死女ライカ目覚める！？そして天道衆刺客組

今章も無事に更新完了いたしました。

つて・・・なつ長丁場なのかしらこれ？？（笑；；）

其れではほぼ毎回恒例のグタグタ予告をどうぞ（笑）

高杉「ご苦労さん。」

ライカは夏美を担ぎながら一礼する。

と同時に高杉ククと笑い「・・・見事だったぜエ、？ライカ。」

ライカ苦笑いしつつ「どうも。」と続け様に「でも、私は正直あまりこの能力は好かないのですよ。高杉様。「ライカのその訳とは？

ライカ「第23章。とりあえず夏美の危機乗り越え？そして、ライカの能力にまつわる過去とは！？何！？」「次章もどうぞ宜しく頼むね！」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第23章。とりあえず夏美の危機乗り越え？そして、ライカ的能力にまつわる海

此方はだいぶお久しぶりとなりました（汗）

天道衆の刺客を倒した後となります。

長丁場ともしかしたら編集可能性があります。

第23章。とりあえず夏美の危機乗り越え？そして、ライカ的能力にまつわる過

アレから「死女」化して天道衆の刺客を倒したライカそして深手を
負った相棒（夏美）を担いでひとまず高杉の所に戻って行った。

そして高杉はキセルを吸いながらライカを見て「ご苦労さん。」

ライカは夏美を担ぎながら一礼する。

と同時に高杉ククと笑い「・・・見事だったぜエ、？ライカ。」

ライカ苦笑いしつつ「どうも。」と続け様に「でも、私は正直あま
りこの能力は好かないですよ。高杉様。」

と悲しげにつぶやいた。

そう・・・。

其れはまるで嘗ての「闇に生きてそして闇に失望した」炎龍の頃の
夏美の様に・・・。

ライカはアレから只夏美を見ながら黙り続けていた。

すると夏美が「・・・ライカ？」

ライカはふと我に戻り「あ、あア・・・何でもねえよ。相棒。」

とほほ笑んだ。

其れは・・・。

「悲しい微笑み」にも見えた。

夏美はそんなライカを黙って見ていた。

と同時に心の中で・・・。

ライカ。「今のお前さんに私しゃア、そして・・・この光景がどう映っている？」

と。ライカは夏美の眼選に気づいたのか・・・フツと笑いながら「何てエ顔ツラしてやがる。」

夏美フツと笑い替えして「お前エさんがそうさせたんだろうが。」

ライカ苦笑いをし「私しゃアの所存かよ。」

夏美フツと笑い「ああ。そうよ。」

と互いに馬鹿笑いをしていた。だが、後にライカは前を向きずっとずっと夏美を担ぎ続けていた。

と同時に夏美「・・・相棒？」

ライカフツと笑い「良いや。何でもねエ。チィとばかり、思い出してな。くだらねエあの事を。」

夏美はその事を聞いて「……………そうか。」

そして高杉達は夏美達の姿を黙って見ていた。

第23章。とりあえず夏美の危機乗り越え？そして、ライカ的能力にまつわる過去とは！？何！？完。

第23章。とりあえず夏美の危機乗り越え？そして、ライカ的能力にまつわる海

今章も無事に大分遅くなりましたが更新完了致しました。

此処までお付き合い下さいましてありがとうございます。

・結局ライカの過去出ませんでしたね汗。申し訳ないです。

次章は出そうと思います。少々ですが・・。

其れでは、ほぼ毎回？ですがグタグタ予告をどうぞ(笑)

アレから天道衆の刺客とのひとまず戦を終えた夏美達。

高杉は自分の部屋にそして土方達も高杉の部屋に再度集まっていた。

一方、夏美は宛がわれた小部屋で1人寝ていた。

其れはライカもだ。

ライカタバコに火を灯しながら一つの写真を見る。

其処には両親とそして・・・姉と自分が映っていた。

「・・・父様。(とうさま)母様。(かあさま)・・・姉様。」とそ
して

「どうして、次女である私が『死女』（死神の力）を受け継がせたのです?」

「私以外でももったのでは?????」 - と悲しそうに呟いた。

夏美密かにライカの部屋に行き「・・・ライカ。」と悲しそうに呟いた。

ライカ「第24章。ライカの過去?そして、ライカの実家であるネアン家の

『力』と『秘密』?」 「次章もどうぞよろしく頼むよ。」

以上です。次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第24章。ライカの過去？そして、ライカの実家であるネアン家の「力」と「秘」
此方では本当に大分またご無沙汰しておりました汗。
今章は主にライカがメインとなります。

此方も長丁場等になる予定です。ご了承のほど。

因みにライカ自身も両親失っています。

レイカはライカの実の姉でワカバのボスに当たるオウガの恋人兼副ボスにあたります。が・・・只今放浪？中です。（今の所設定）

第24章。ライカの過去？そして、ライカの実家であるネアン家の「力」と「秘」アレから天道衆の刺客とのひとまず戦を終えた夏美達。

高杉は自分の部屋にそして土方達も高杉の部屋に再度集まっていた。

一方、夏美は宛がわれた小部屋で1人寝ていた。

其れはライカもだ。

ライカタバコに火を灯しながら一つの写真を見る。

其処には両親とそして……姉と自分が映っていた。

「……父様。（とうさま）母様。（かあさま）……姉様。」とそして

「どうして、次女である私が「死女」（死神の力）を受け継がせたのです？」

「私以外にももったものでは?????」 - と悲しそうに呟いた。

そしてどうしてもアレからライカの事が心配になった夏美は密かにライカの部屋に行き「……ライカ。」と悲しそうに呟いた。

そして少し離れて「・・・今は1人にしてやったほうが良いかも知れねえな。」と呟き何時もの様にタバコに火を灯しながら部屋を後にし宛がわれた部屋に戻って行った。

そして心の中で・・・。

リュウ様。 サクラ様。 (ライカの父母の名) 本当に、これで良かったんでしょうか？

レイカ様(姉様) あねさま(貴女は今どちらにいらっしやるのです？)

兄様も貴女様のお帰りを心よりお待ちしているのに・・・。

と同時に頭をかきながら「たああくよオ！うちの相棒は（ライカ）は「厄介なもん」抱えてるな。」

と続け様に苦笑いをし「まア・・・だが。私しゃアも人の事言えねエ、よなア。」

すると前から武市が現れ「おや・・・夏美様。お休みにならなくてよろしいので?。」

夏美「あ・・・変態さん（武市）だ。」

その事を聞いて武市が「変態じゃない。フェミニミストです。」と何時も同じセリフを返してきた。

その事を聞いた夏美は……。

再び心の中で「桂^{ツラ}さんと同じセリフだなア」と呟いていた。

そして夏美「いやね。相棒がアレから気になってさ。休んでもいられないですよ。」

その事を聞いた武市が「そうでしたか。何なら……私がお休みになられるまでお側に……。」

と言いかげ様とした次の瞬間「武市変態イイ!!!夏美様に何をするつもりだったっスカア!!!」

とまた子が二丁拳銃を取り出しながら武市に向けて発砲しようとし

て走って来た。

すると武市が「失礼な。猪女。只私は夏美様がお休みになられる事が出来るまでお側にいようと思つたのですよ。ってか、先輩つけるコノヤロー!!」

また子其れを聞いて「尚更ダメに決まってるっス!!この事が晋助様と十四郎様の耳に入ったらアンタ斬られるっスよ!!!!」

武市其れを聞いて「おやおや・・・其れは困りますね。其れでは夏美様あまりご無理なさらぬよう。。。」

そう言い立ち去って行つた。

夏美はその2人のやり取りを聞き思わず笑みがこぼれていた。

するとまた子は二丁拳銃をホルダーにしまい「夏美様。お部屋にお戻りを。」

夏美フツと笑い「……………あア。」そう言いまた子と共にライカの部屋の前を後にした。

ライカ。

お前さん……………。

今も昔も……………本当は。

‘悔んでいるのか’？

アレを受け継いだ事を・・。

でもな・・少なくとも私しゃアはお前さんの事を‘死神’
’とははなっから思っちゃアいねエよ。

‘人間’だと思っている。今も昔もだ。

一方、ライカは、部屋で己の過去について不意に思い出していた。

「やアアイ、死神の子。お前は、死神の子、」

石を投げられる。

「こいつにかまったら死んじゃまうぞ。何せ死神の子、だからな、」

其れでも耐える子供時代のライカ。

すると……。

子供時代の夏美が『クオオオらアあ！！アンタら！！！うちの馴染みに何しでかしてるんじゃない！！』

といじめっ子に食ってかかっている。

「ヤベツ！！橘家本家んの奴だ。逃げる！！お前も、そいつに近づくなよ！！死にたくなければな！！」

と逃げ出すいじめっ子共。

其れを聞いた夏美は「フン！！こいつの手にかかって死ねるなら本望だ！アンタらにうちの相棒をとやかく言われる筋合いないね！」

と同時に「・・・相棒。大丈夫？」と手を差し伸べた。

ライカは頷き夏美の手を取り礼を言った。

ライカのカ……。其れは、死を与えてしまふカ、それ故、異形、に見られてしまふ事が多い。

だが、其れでも・夏美は側にいた。

其れは、普通にライカの事が好きだったからだ。

其れは、夏美の亡き両親も同じだった。

ライカフウーとタバコの煙を出し、「そついやア、昔から私しやアの側にいてくれたのも夏美^{あいつ}だったな。」過去を思い出す何ざア私しやアらしくねエ。」と呟いた。

そして外を見た辺りはもうすっかり、夜、になっていた。

満月も出ていた。

するとノックの音がした。

ライカ「はい。」

「俺だ。」

その声は高杉だった。

ライカ「どうぞ。」

その声と同時に高杉が土方と入って来て「邪魔するぜエ？？どうよ？
一緒に？」

と酒を持ってきた。

ライカフッと笑い「頂きます。」

そう言って三人で月見酒をした。

第24章。ライカの過去？そして、ライカの実家であるネアン家の
‘力’と‘秘密’？完。

第24章。ライカの過去？そして、ライカの実家であるネアン家の「力」と「秘

今章も無事に更新完了致しました。

大分長くなってしまいましたか・・・汗。

其れではほぼ毎回ですがグタグタ予告をどうぞ。（笑）

アレからずっとライカは高杉達と部屋で月見酒をしていた。

一方、夏美は部屋で休みながらタバコを吸い続けていた。

するとまた子が食事を持ってきた。

また子「夏美様。お食事お持ちしたっす。アレから何もお食べになられていなかった御様子みたいっすから。」

夏美微笑んで「有難う。其処のテーブルに置いてくれるかい？」

また子「はいっす！」そう言い食事を置いた。

夏美はタバコを消し食事を食べ始め「で？ライカは？」

また子「アレから晋助様方とお酒飲まれているっす。」

夏美頷き「そうか。じゃ・・・少しは元気になったんだね。良かったよ。」

と呟いた。

夏美「第25章。夏美徐々に回復傾向？そしてライカへの想い。」

「次章もどうぞよろしく頼むね。」

以上です。其れでは次章も今章同様にお楽しみ頂ければ幸いです。

第25章。夏美徐々に回復傾向？そしてライカへの想い。（前書き）

今章は、主に夏美が中心予定です。

多分長丁場等予定です。

第25章。夏美徐々に回復傾向？そしてライカへの想い。

アレからずっとライカは高杉達と部屋で月見酒をしていた。

一方、夏美は部屋で休みながらタバコを吸い続けていた。

するとまた子が食事を持ってきた。

また子「夏美様。お食事お持ちしたっス。アレから何もお食べになられていなかった御様子みたいっスから。」

夏美微笑んで「有難う。其処のテーブルに置いてくれるかい？」

また子「はいっス！」そっかい食事を置いた。

夏美はタバコを消し食事を食べ始め「で？ライカは？」

また子「アレから晋助様方とお酒飲まれているっス。」

夏美頷き「そうか。じゃ・少しは元気になったんだね。良かった

よ。」

と呟いた。

そして、外を見て「……………満月か。」とも呟いていた。

その事が聞こえたのかまた子が「夏美様？どうされたっすか？」

夏美はつと我に戻りフツと笑い「・・・いや。なんでもないさ。」

私しゃアとした事が過去を思い出すなんてね。

まア・・・こういうのもたまには悪くねエかと心の中で笑った。

父さん、母さん。私しゃアは、ワカバの為に橘家本家の宿命サダメを護る
為に再度「闇の修羅場」を

行くよ。無鉄砲と思われてもね私しゃアは突き進むよ。何処までも
ね・・・・・・・・・・・・・・・・。

そう呟きながらタバコを灰皿にもみ消し食事を取り始めた。

・・味いな。やっぱりちゃんと食べた方がいいね。

さっさと元気になって晋助様達を安心させてあげないと・・。

いけないからね。

そして、‘また戦うよ。大事なものを護る為に。宿命^{サダメ}’の為に。

誰が何と言おうと此れが私しやアの‘生き方なんだ。’

‘ありのままの自分何だ。今の・・・。’

ねえ・・・。父さん？母さん？今の私しやアちゃんと笑っているか

な?????????

ちゃんと前向けているかな???????

第25章。夏美徐々に回復傾向?そしてライカへの想い。完。

第25章。夏美徐々に回復傾向？そしてライカへの想い。（後書き）

遅くなりまして申し訳ありません……。いや本当ですね（笑；）

基本的にネタ浮かび次第の更新となりますから……。自由きままにそして暖かく見守って頂ければと思います。

其れでは、グタグタ予告をどうぞ（笑）

一方、ライカは高杉と共に酒を飲んでいた。

と同時に夜空に満月が出ていて其れを見て高杉が「見るよ。ライカ。デケエ

月が出ているぜ？」

ライカもタバコに火を灯しながら「……そうですね。でかいですね。高杉様。」

高杉酒を飲みながらクククと笑い「こう言う日は、かぐや姫でも降って来そうな気がするなア。」

ライカは其れを聞いて黙って満月を見ていた。

「……かぐや姫」か。一体どんなかぐや姫さんが来るのかな？

「……でも、相棒はあまり良い気持ちにはならねえだろうなア。」と心の中で呟いた。

第26章。高杉とライカの会話そして・・・夏美への想い。

次章もどうぞ宜しくお願い致します。

以上です。有難うございます。

第26章。高杉とライカの会話そして・・・夏美への想い。(前書き)

大分ご無沙汰しております。

今章は主にライカが中心となる予定です。

多分此方も長丁場編集可能性あります。

第26章。高杉とライカの会話そして・・・夏美への想い。

一方、ライカは高杉と共に酒を飲んでいた。

と同時に夜空に満月が出ていて其れを見て高杉が「見るよ。ライカ。デケエ

月が出ているぜ?」

ライカもタバコに火を灯しながら「・・・そうですね。でかいですね。高杉様。」

高杉酒を飲みながらクククと笑い「こつ言つ日は、かぐや姫でも降つて来そつな気がするなア。」

ライカは其れを聞いて黙つて満月を見ていた。

・・・かぐや姫、か。一体どんなかぐや姫さんが来るのかな?

・・・でも、相棒はあまり良い気持ちにはならねえだろつなア。
と心の中で呟いた。

なア・・・相棒?今お前さんはこの満月を見てどう思っているんだ
??????

また、大樹さん達の事思い出してしまっているのか?????????
???

あの時（幼少時代）お前さんが私を救ってくれたように……

私もお前さんを救わせてくれよ……

頼むよ……相棒。

一方、夏美はアレから自分の部屋にずっと閉じこもっていた。

相も変わらずタバコに火を灯していた。

そして煙が充満する。

夏美は軽いため息をつき空を見るそして……

「父さん母さん」ととても寂しそうに呟いていた。

・・・私しゃアの道は此れで良いのかい？

間違っていないのかい?????

ねえ、教えてよ？

父さん達。

そう心の中で呟きながら夏美はタバコを吸い続けていた。

闇と表。其れが行き来する冷静でいられなくなる。

夏美はタバコの煙を吐き出して苦笑いし「・・・らしくねえな」と言った。

と同時に「何時から女々しくなったんだ？私は……。」と呟いた。

そして……。

「失ったものは二度と戻らないんだよな。」と心の中で呟いた。

そして再度苦笑いして外を見ていた空には綺麗な満月がかかっていた。

「……満月か？」

「昔は好きだったけど……今はどうもな。」

「満丸お月さま出てきたよ。」

「……満丸お月様出てきたよ。」か。

幼少の頃の私しゃアは、何となくけど・・・こつも歌っていたんだよな。

一方、此処は晋助達の隠れ家兼料亭の路地裏の後

その隠れ家兼料亭を其処で黒と白という珍しい組み合わせの着物を着ていた男が見ていた。

男はフツと笑い「・・・此処にいたのかね。夏美。」と楽しそうに呟っていた。

第26章。高杉とライカの会話そして・・・夏美への想い。完。

第26章。高杉とライカの会話そして・・・夏美への想い。（後書き）

無事に更新完了致しました。有難うございます。

ほぼ長い間お待たせしてしまい申し訳ありませんでした。汗

何故ネタ浮かび次第の更新なので汗笑

遅くなったこと申し訳なく思います。

此処から先はコラボ要素 がありますので苦手な方はご注意ください
ん乱をお控えくださるとありがたいです

其れでは・・・ほぼ毎回の予告風をどうぞ。

アレから、香蘭との対立後にそれぞれの部屋で休んでいた。晋助を
始めとする夏美達。

すると、一瞬凄い違和感に襲われた。

と同時に晋助に報告が入った。

晋助は軽く舌打ちして「……………攘夷の梟雄か。」

その場にいたライカはそれを聞いてかなり驚いた。

・ ・ ・もしかして、松永の旦那さんか！？なら、急いで相棒に知らせなきゃ！！今の相棒にあの人を会わせるのはちとまずい！汗

そのライカの想いとは裏腹に夏美の部屋にはまがましい気配があった。

其れを感じ取った夏美は翡翠刀を握り締めて警戒していた。

すると「いやはや・ ・ ・そんなに警戒しないでくれたまえ。」と低い男の声がした。

夏美にとっては、その声は聞き覚えのある声だった。

夏美の回想

「満丸お月さま出てきたよ」

「卿は、満月が好きかね？夏美。」

「・ ・ ・！！！！久秀様！はい！好きです！とてもきれいですから！」

そして幼いころの夏美に手を差し伸べて

「来なさい。もっと見やすくしてあげよう。」

と肩車をしてあるビルの屋上に連れて行って見せられた。

「うわー。きれい！ -

「どうかね？良く見えるかね？ -

「はい。ありがとうございます。久秀様！ -

「何。卿が望むならいくらでもしてあげよう」

「欲望のまま動けばいいのだ。 -

と幼い夏美に言い聞かせていた。

夏美は我に戻り「・・・久秀様？」

其処には攘夷の梟雄、松永久秀が居た。

久秀は夏美を見るとフツと笑い「やあ・・・夏美。久しいね。大きく
なった。」と言った。

夏美「第27章。わずかな休息後に夏美に忍びよる、嘗ての過去と
の再会。」

「次章も宜しくね。」

以上です。ありがとうございます。

第27章。わずかな休息後に夏美に忍びよる、嘗ての過去との再会。

（前書き

ご観覧頂きありがとうございます。

此処から先は恐らく（もしかしたらコラボ要素この小説も前からひよっとしたら入っていたかもしれないもし間違ったらすみません汗）

コラボ要素入ります。此方もすみませんが・・戦国BASARAです。

何分管理人がほぼはまってしまって苦笑；

此方も長丁場そしてひよっとしたら残酷シーン等が入るかもしれないせん。

コラボ要素と同様に御了承を汗

其れでは第27章。最後まで御付き合いの程頂ければと思います。

第27章。わずかな休息後に夏美に忍びよる、嘗ての過去との再会。

アレから、香蘭との対立後にそれぞれの部屋で休んでいた。晋助を始めとする夏美達。

すると、一瞬凄い違和感に襲われた。

と同時に晋助に報告が入った。

晋助は軽く舌打ちして「……」攘夷の梟雄か。」

その場にいたライカはそれを聞いてかなり驚いた。

・もしかして、松永さんか!? なら、急いで相棒に知らせなきゃ
!! 今の相棒にあの人を会わせるのはちとまずい! 汗

そのライカの想いとは裏腹に夏美の部屋にはまがましい気配があった。

其れを感じ取った夏美は翡翠刀を握り締めて警戒していた。

すると「いやはや・そんなに警戒しないでくれたまえ。」と低い男の声があった。

夏美にとっては、その声は聞き覚えのある声だった。

夏美の回想

―満丸お月さま出てきたよ―

―卿は、満月が好きかね？夏美。-

―・・・！！！！久秀様！はい！好きです！とてもきれいですから！―

そして幼いころの夏美に手を差し伸べて

―来なさい。もっと見やすくしてあげよう。-

と肩車をしてあるビルの屋上に連れて行って見せられた。

―うわゝ。きれい！-

―どうかね？良く見えるかね？-

―はい。ありがとうございます。久秀様！-

―何。卿が望むならいくらでもしてあげよう―

―欲望のまま動けばいいのだ。-

と幼い夏美に言い聞かせていた。

夏美は我に戻り「・・・久秀様？」

其処には攘夷の梟雄、松永久秀が居た。

久秀は夏美を見るとフツと笑い「やあ・夏美。久しぶりだね。大きくなつた。」と言つた。

夏美はその姿を見て只固まっていた。

久秀は再度フツと笑いながら夏美に近づきながら「どうしたね？久々の再会だと言つのに・何を固まっているのかね？」

夏美はその事を聞いて驚きながら内心で・。

この人本当に久秀様か？汗

凄い・・・覇気・・・この私が押されるなんて・・・。

そして、いつの間にか夏美の前に立ち夏美の頬を撫でていた。

夏美は撫でられた事に懐かしさを覚えていたのかそつとその手をすりよせていた。

・・・そんなに暖かくもないけど心地いい。

いつ無頼だろうか……。

久秀はその様子を見て再度フツと笑い「……卿を迎えに来た。さあ私と共に行こう。」と夏美自身の腕をいつの間にかつかんでいた。

と同時に行き成りすごい音がした。

そしてまた子の声がして「夏美様あああああああ！敵襲つス！！！」

その事を聞いた夏美は潔く久秀から離れ「来ッちゃん！！何処の連中だ！？」

また子は「そ、それが……春雨なんつス！！！！しかも広州と石田組もいるっス！！！」

夏美はそれを聞いて軽く舌打ちして「・・・たくよ！面倒な事してくれる！！」そして「晋助様と兄貴に

報告は？」

また子は頷き「先程入れたっス！そうしたら迎え討てとの事っス！」

夏美はタバコに火を灯しながらフツと笑い「了解！じゃ・・・派手にかまして良いんだね？」

また子は其れを聞いて「もちろんっス！」其れを聞いた夏美は「じや先行つてくれるかい？後から行くよ。」

また子は再度頷き「了解っス！！！」「そう言いその場を後にした。

と同時に夏美は久秀を見て苦笑いして「・・・すみませんね。せつかくの再会なのにはやはりうまくいかないものです。」と呟いていた。

そして、夏美は後ろを向いてチラツと久秀を見て「・・・申し訳ありませんね。此れが今の私なのです。」

時間ときはやはり、人を変えてしまうもの。」「そう言いながら」
今度は、何も無い時に再度お会いしたいもんです。」「と同時に」
「もし、帰られるのであれば裏口から帰られる事お勧め致しますよ。
正面は・・・ごたごたですのですね。其れを少々静かにして参りま
すよ。」「そう言い夏美は消えて言った。

久秀は軽くため息をついてフツと笑い「・・・私にとっての卿は
あの頃とは変わっていないのだがね。」「と呟いてそして「さて・
風魔。」「

一瞬風が来て黒衣着物来た男が出てきた。

久秀風魔を見てニヤリと笑い「春雨連中を少々懲らしめて来てく
れるかね?」「

風魔はそれを聞いて頷きその場をすばやく後にした。

久秀は鞘から刀を抜きながら部屋を出て「・・・さて、私も動き始
めるとしよう。」「と楽しそうに言った。

と続け様に「・・・さあ、私の時間だ。」「とも言った。

一方、夏美は襲撃があつた所に向かつていた。

そして春雨連中が夏美の前に出て夏美は翡翠刀を急いで抜き「どけ！！邪魔するな！！翡翠流・翡翠烈風弾！！！！！！」と攻撃を仕掛け春雨連中はぶっ飛んだ。

と同時に「近藤の兄さん達！！どうか無事で！！！！！！」と祈るように走つて行つた。

第27章。わずかな休息後に夏美に忍びよる、嘗ての過去との再会。
' 完。

第27章。わずかな休息後に夏美に忍びよる、嘗ての過去との再会。

（後書き

有難うございます。無事に更新完了致しました。

其れではほぼ毎回のお待たせを致しましたがグタグタ予告風をどうぞ。

アレから久秀との再会を果たした夏美。そして石田組と手を組んだ春雨の襲撃を受ける。

と同時に夏美の行く手を阻む春雨達其れを何とか逃れて退いた夏美だが、どんどんと現れる。夏美自身軽く舌打ちした次の瞬間黒ずくめの着物の姿をした風魔が現れて春雨達を次々となぎ倒して行った。

夏美はその姿を見て驚いた。

・・・で、伝説の攘夷の忍び風魔小太郎何でだ？汗と内心呟いていた。

夏美「第28章。春雨VS夏美そして伝説の攘夷の忍び風魔小太郎現れる。」

「次章も宜しくね。」

第28章。春雨VS夏美そして伝説の攘夷の忍び風魔小太郎現れる。(前書き)

有難うございます。

今章は主に前回の続きの様なものです。

此方も長丁場の残酷シーン等あり予定ですので予めご了承下さい。

今章は、風魔さん出る予定ですが・・・此処での風魔さんは予めお断りしますが、

原作とは違い・・・話します(予定) その方が分かりやすいかと思
いまして。

苦手な方は予めご覧されない事を進め致します。

それ以外の方はどうぞ最後までごゆるりと。

第28章。春雨VS夏美そして伝説の攘夷の忍び風魔小太郎現れる。

アレから久秀との再会を果たした夏美。そして石田組と手を組んだ春雨の襲撃を受ける。

と同時に夏美の行く手を阻む春雨達其れを何とか逃れて退いた夏美だが、どんとどんと現れる。夏美自身軽く舌打ちした次の瞬間黒ずくめの着物の姿をした風魔が現れて春雨達を次々となぎ倒して行った。

夏美はその姿を見て驚いた。

・・・で、伝説の攘夷の忍び風魔小太郎何でだ？汗と内心呟いていた。

まさか？久秀様に、雇われているのか？

と同時に夏美は神経を研ぎ澄ましていた。

そして、背後に春雨の連中が夏美に斬りかかった。

夏美は翡翠刀で連中を斬り付けた。

一方、ライカは夏美がいる部屋へと急いで近藤組の連中とワカバの

連中を連れて向かって行った。

心の中で。

頼む。相棒・・・無事でいてくれよ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1920/>

銀魂。鬼の副総督と呼ばれた男。

2011年11月19日18時06分発行